

あなたの身近にいつも…アキレス



# アキレスのCSR 2020

*Living with Society*



# Contents

目次／このレポートについて	1
トップメッセージ	2
事業内容／沿革	3
会社概要	4
企業理念・CSR重要テーマ	5

## 特集

①CSR重要テーマに関する活動紹介	9
②海外でのCSR活動	11

## 環境のために

環境マネジメントシステム	12
地球温暖化対策	14
省エネルギー	15
3R活動と完全ゼロエミッション	15
大気汚染防止	16

## 社会と共に

品質への取り組み	17
労働安全衛生・防火防災への取り組み	18
お客様と共に	20
株主様と共に	21
お取引先様と共に	21
従業員と共に	22
地域社会と共に	24

## マネジメントについて

コーポレートガバナンス	26
コンプライアンス	27
CSRマネジメント	28

データ編(環境のために)	29
--------------	----

## このレポートについて

### ■ 報告書対象範囲

アキレス株式会社および国内子会社・海外子会社  
※範囲が異なるものについては個別に明記します。

### ■ 報告対象期間

2019年4月～2020年3月

### ■ 発行時期

前回：2019年9月

今回：2020年9月

次回：2021年9月(予定)

※年1回発行

### ■ 参考にしたガイドライン・原則・技術規定

ISO 26000(社会的責任に関する手引)

ISO 14001(環境マネジメントシステム)

SDG Compass(SDGsの企業行動指針)

### ■ 編集方針

アキレスグループは「『顧客起点』のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する」という企業理念を定め、「健康」「快適さ」「楽しさ」を感じることが出来る製品やサービスを提供することが、グループにとっての重要な課題であると位置づけています。また持続可能な社会の発展に貢献する活動として、「省エネルギー化」や「地球温暖化防止」にも積極的に取り組んでいます。これらの課題への対応には株主様、お客様、お取引先様、従業員などさまざまなステークホルダーとの連携が重要であると考えています。本レポートでは、ISO 26000を活用して取り組みのチェックを行いながら、グループの主なCSR活動に関する詳細な情報をESG(環境、社会、ガバナンス)で分類し、パフォーマンスデータと共に活動報告として記載しています。

## CSR報告ツールについて

本レポートは、アキレスのCSRの考え方や取り組みについて紹介しています。当社ホームページで閲覧できるほか、印刷物としても発行しています。過去に発行したレポートは、当社ホームページで閲覧することができます。



アキレスのCSR

検索

<https://www.achilles.jp/csr/>

## トップメッセージ



代表取締役社長

伊藤 亨

新型コロナウイルス禍により被害を受けられました皆様に心より  
お見舞い申し上げます。

コロナ禍に全世界が揺れ、これまでの社会活動・経済活動が  
甚大な影響を受けています。これまで私たち人類が営々と積み  
上げてきた社会的な基盤が、新型コロナウイルス感染症の蔓延  
によって大きな打撃を受け、新たなシステムへの変更を余儀なく  
されています。

私たちはお互いを理解し合うために十分なコミュニケーション  
をとろうとしてきました。そして喫緊の課題であります地球温暖化  
対策や環境保全など世界規模での活動をさらに加速していくこ  
とが求められていました。しかし、各国の往来が厳しく制限され  
る中で、新たな対応が求められています。また、解決されなけ  
ればならない身近にある社会的課題は、さらに複雑化して、解  
決への道がさらに遠のいたように感じます。弱者がますます弱者  
になる。このような社会を変えていく必要があります。防疫のため  
にプラスチック製品の使い捨てが多くなったり、「密」を防ぐため  
にエネルギーの効率が低下したり、一時的には仕方ないこと  
かもしれませんが、将来に新たな禍根を残す可能性もあります。  
これらの課題を克服するために私たち自らが変わり、ニューノー  
マル(新常态)を構築する必要があります。

私たちアキレスグループはこのニューノーマルに適した製品や  
サービスは何なのかを考え、深く追求し、より良い社会に変えて  
いく義務の一端を担っていると思っています。私たちアキレスグ  
ループだからこそできること、幅広い分野のお客様とつながって  
いることを通して、新たなステージで社会に貢献できる企業を目  
指していきます。

今、見えない敵と戦うために新たな素材・製品やサービスが  
求められる中で、迅速な対応力が鍵となるでしょう。この速度に  
応えるためには多くのお客様と連携していかなければなりません。  
まだまだ、コロナ禍の不安が消えない中で、どのようにすればお  
客様と連携できるのか、常に考えたいと思います。人と環境に  
やさしく快適な生活空間を創造する企業を目指して。

2020年9月

## 事業内容

### シューズ部門

シューズ事業部 キッズ、メンズ、レディースシューズ



キッズ



メンズ



レディース

### プラスチック部門

車輻資材事業部 車輻内装用資材、一般塩化ビニールレザー、合成皮革など



化成事業部 一般用・工業用・農業用・医療関連用フィルムなど



建築事業部 建築用内装資材



引布販売部 防災テント、ボート、住宅排水管用フレキシブルジョイントなど



### 産業資材部門

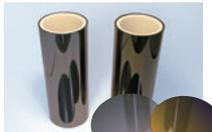
ウレタン事業部 軟質ウレタンフォーム製品、および2次加工製品



断熱資材事業部 硬質ウレタンフォーム断熱製品、現場発泡用硬質ウレタンフォーム、発泡スチロール断熱材など



工業資材販売部 静電気対策製品、反応射出成形品など



### 開発営業部

開発営業部 「Tn-p工法」などインフラ関連技術、「グラス」



## 沿革

1947年	5月	資本金200万円をもって「興国化学工業株式会社」を設立。本店を東京都中央区日本橋とし、工場を栃木県足利市に置き、ゴム製品の製造、販売を開始。
1948年	4月	塩化ビニール製品の製造・販売を開始。
1951年	3月	本店を東京都中央区新富町に移転。
1956年	6月	大阪営業所を大阪支店に昇格し、関西市場の拡張をはかる。
1957年	4月	栃木県足利市に山辺工場(現・足利第一工場)を建設。
1961年	6月	英国ICI社と軟質ポリウレタンフォームの製造に関する技術提携。
1962年	9月	東京証券取引所市場第一部に上場。
1963年	1月	当社独自の合成皮革「カブロン」の製造に成功、販売を開始。
1964年	2月	本店を東京都新宿区大京町に移転。
1965年	11月	米国ニューヨークに現地法人アキレス K.C.I. Corp. を設立。 (1978年ACHILLES USA, INC. により吸収)
1969年	7月	栃木県足利市に御厨工場(現・足利第二工場)を建設。 車輻内装材、硬質ウレタンシェル等産業資材の製造に着手。
1973年	2月	香港駐在員事務所を現地法人とし、「興白有限公司」(現ACHILLES HONG KONG CO., LIMITED)設立。
1973年	10月	滋賀県犬上郡に関西工場(現・滋賀第二工場)を建設。
1973年	11月	米国ワシントン州エヴァレット市に「KOHKOKU USA, INC.」(現ACHILLES USA, INC. )を設立。
1974年	8月	北海道美唄市に美唄工場を建設。
1978年	11月	滋賀県野洲市に滋賀第一工場を設立。
1982年	2月	社名を変更し、「興国化学工業株式会社」から「アキレス株式会社」とする。
1986年	6月	ドイツA.S.Creation社と壁材製造に関する技術提携。
1988年	3月	スウェーデンTarkett社と床材の製造に関する技術提携。
1989年	1月	福岡県飯塚市に九州工場を建設。
1993年	12月	中国昆山市に塩ビレザーの製造合弁会社「昆山阿基里斯人造皮有限公司」(現・昆山阿基里斯新材料科技有限公司)設立。
1998年	12月	導電性素材「STポリ」生産開始。
2002年	9月	ISO 14001全国7工場6関連会社の全てで認証を取得。(2020年4月時点：全国6工場4関連会社)
2002年	10月	中国上海市に、中国国内における当社関連製品の販売および輸出入を行う「阿基里斯(上海)国際貿易有限公司」を設立。
2004年	2月	「昆山阿基里斯人造皮有限公司」(現・昆山阿基里斯新材料科技有限公司)第二工場稼働。
2005年	12月	栃木県足利市の足利第一工場内に「アキレステクニカルセンター」を開設。
2006年	11月	「三進興産株式会社」の発行済全株式を取得し、当社子会社とする。
2007年	10月	環境に配慮した車輻内装用合成皮革の生産に向け、最新鋭製造設備を足利第一工場に導入。 全事業部でのISO 9001取得。
2008年	2月	台湾に、半導体市場の生産拡大に合わせ「阿基里斯先進科技股份有限公司」を設立。
2008年	4月	米国デトロイトにACHILLES USA, INC. の営業所を設立。
2009年	3月	シューズ「瞬足」ブランド、伊藤忠商事株式会社とパートナーシップ契約を締結。
2015年	2月	本店を東京都新宿区北新宿に移転。
2019年	5月	中国広東省佛山市に阿基里斯(佛山)新型材料有限公司を設立。
2019年	11月	アキレスリテール株式会社を設立。

# 会社概要

設立 1947年5月  
 代表者 代表取締役社長 伊藤 守  
 資本金 146億4千万円  
 従業員数 1,675人(連結) ※2020年3月末  
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)

本社所在地 〒169-8885 東京都新宿区北新宿2-21-1 新宿フロントタワー  
 事業所 [販売拠点] 東京、大阪、北海道、愛知(ウレタン)、福岡  
 [生産拠点] 栃木(2拠点)、滋賀(2拠点)、北海道、福岡  
 ※各拠点の詳細な住所は以下URLでご確認ください。  
<https://www.achilles.jp/company/>

## 事業拠点

**アキレス** アキレス(株) 拠点

子会社事業説明

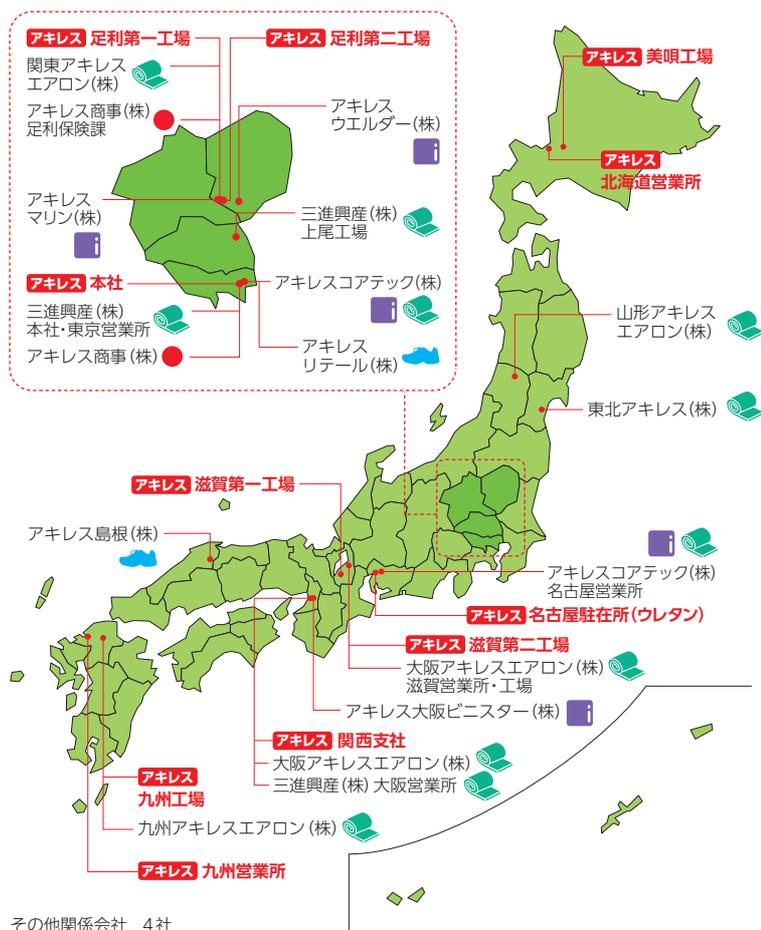
シューズ部門

プラスチック部門

産業資材部門

その他

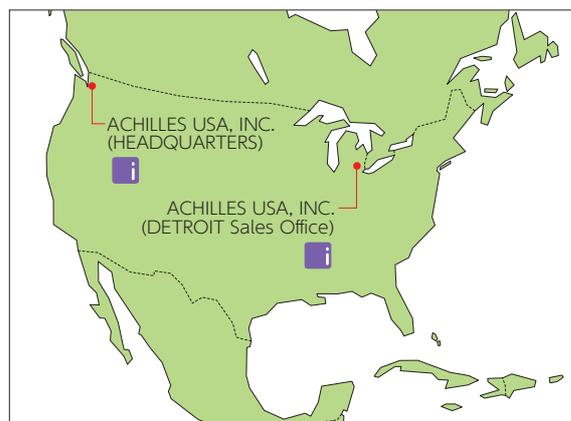
### ●日本



### ●アジア

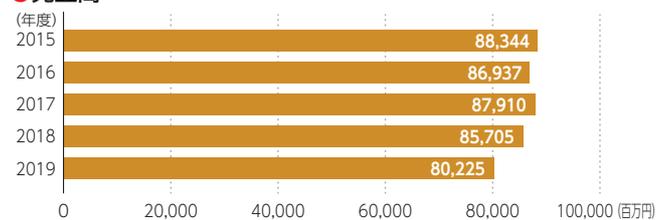


### ●アメリカ

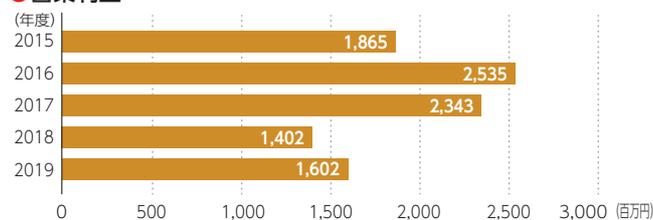


## 連結売上高・利益年度別推計

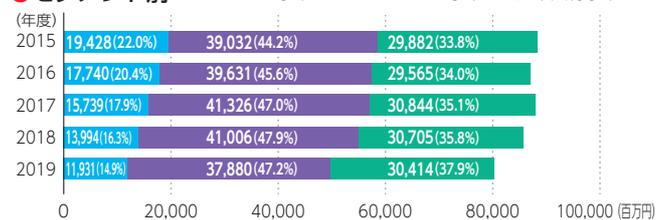
### ●売上高



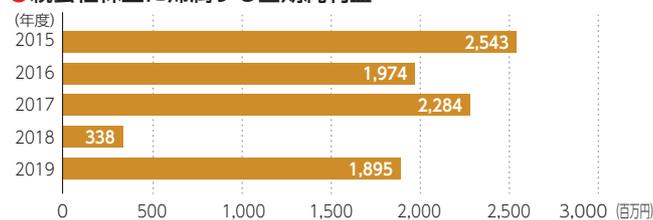
### ●営業利益



### ●セグメント別



### ●親会社株主に帰属する当期純利益



※その他、財務情報および大株主に関する情報は有価証券報告書をご参照ください。

## 「社会との共生」=「顧客起点」

「顧客起点」のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する。

### アキレスグループのCSRの基本的な考え方

私たちアキレスグループは、豊かで快適な社会づくりに貢献できる会社であり続けることを目指しています。そのために必要なのが、企業に社会に未来に、新たな価値を創り続けていくことです。「健康」「快適さ」「楽しさ」「省エネルギー」をキーワード

に、創業以来培ってきたプラスチック加工技術をさらに向上・進化させ、お客様により身近な製品、独創性のある製品をご提案します。私たちはたゆまぬ改善を重ね、全てのステークホルダーの皆様の信頼とご期待に応えます。

### アキレスのCSR重要テーマと2019年度の主な取り組み結果

アキレスでは、ISO 26000の7つの中核主題に基づき、重要度の高い取り組みを「CSR重要テーマ」と位置づけています。2019年度の取り組みの一部を以下に掲載しています。

CSR重要テーマ・活動方針	2019年度活動目的	具体的な取り組み	KPI (重要成果指標)		2019年度改善度*1	取組主体	関連ページ	
			目標値	実績値				
<b>製品・サービスを通じた真の満足と感動の提供</b> 製品における安全性確保や品質向上に取り組み、社会の要請に応え感動を与えるモノづくりを追求します 	真の満足を得る品質レベルの醸成	お客様の安心安全を足元で支えるシューズ製品づくりに注力し、さらなる品質向上に努めます。	苦情返品足数の削減率	前年から42.0%削減*2	目標42.0%減 →49.7%減	118.3%	シューズ事業部	-
		製造工程ごとに品質確認パトロールを実施し、製造品質の確認と品質向上にむけた提案を行い、品質レベルの向上を推進します。	指摘・提案に対する工程改善率	前年から3%向上	前年75.0 →86.5%	115.3%	品質保証部	P.18
	災害・事故対応への貢献	災害による建物破損発生時に備え、人への安全配慮に適う製品(「フネンクリア*3」など)を訴求します。	災害対策製品出荷量の増加率	105.0%	前年100.0 →73.0%	73.0%	化成品事業部	P.9
		災害対策用テントや救助用ボートなどの災害、事故対応製品を拡充します。	開発モデル数	4モデル	前年3→4モデル	133.3%	引布販売部	P.9-10
	より安全で快適な製品づくり	汎用軟質ウレタンフォーム*4製造発泡工程における揮発性溶剤使用率を低減します。	揮発性溶剤不使用率	70.0%	前年59.0 →70.0%	118.6%	ウレタン事業部	-
	オープンイノベーションを活用した製品開発	オープンイノベーションを活用し、顧客ニーズに合う従来にない仕様の製品を開発、提供します(快適な暮らしに役立つ製品の開発)。	開発仕様数	1仕様以上	前年0→3仕様	300.0%	ウレタン事業部	P.10
	地球温暖化対策の必要性を啓蒙	建物の断熱性能を高めることで冷暖房時のエネルギー消費を抑え、CO <sub>2</sub> 排出削減につながることを広く訴求します。	対話企業数/年	1,000社	前年224→800社	357.1%	断熱資材事業部	P.10
	事業を通じた社会的課題の解決ならびに解決策の探求	静電気対策は部品製造時の歩留まり向上のみならず、製品寿命に直結する重要な要素であることを、講習会などを通じて訴求します。	講習会受講者の理解度	80%	理解度: 前年60.0 →87.9% (講習会: 前年14→5回)	146.5%	工業資材販売部	P.10
			施工業者や代理店へのアンケート調査を通じて、当社独自の土工法やプラスチック加工技術を生かした用途開発を行います。	開発検討件数	前年+α	前年10→14件	140.0%	開発営業部
	土工法におけるイノベーションの訴求	発泡ウレタンや発泡スチロールを用いた当社独自の土工法が、輸送時のCO <sub>2</sub> 排出量削減や工期短縮につながることを訴求します。	採用率(採用件数÷提案件数)	前年+α	前年38.9 →54.3%	139.6%	開発営業部	-

CSR重要テーマ・活動方針	2019年度活動目的	具体的な取り組み	KPI (重要成果指標)	2019年度改善度*1		取組主体	関連ページ		
				目標値	実績値				
消費者課題	足育(そくい)※5の啓蒙を通じた普及	小中学生向け、さらには高齢者向けの「足育(そくい)」出前講座を積極的に行います。	足育(そくい)の啓蒙度※6(出前講座の回数×聴講者数)	154,000	前年94,400→230,076(出前講演回数63回、聴講者数3,652人)	お客様相談室	P.20		
環境	<b>環境への取り組み</b> CO <sub>2</sub> 、水、廃棄物などの環境負荷低減、森林や生物多様性などの環境保全に取り組みます 	海洋廃プラスチック問題への対応	CLOMA※7の活動に参加するとともに、生分解性プラスチック製品を訴求します。	生分解性プラスチック製品出荷量の増加率	105.0%	前年100.0→107.0%	107.0%	化成品事業部	P.9
		河川流域、沿岸でのプラスチックごみの投棄禁止を啓蒙します(2019年度より実施)。	啓蒙パンフレットの同梱率(ポート製品)	20.0%	目標20.0→6.8%(前年0.0%)	34.0%	引布販売部	P.10	
		森林保全への貢献	壁紙用裏打紙およびクッションフロア用基材の原料として、計画伐採林由来の紙の使用に努めます(2019年より強化)。	計画伐採林由来の紙の使用率	100.0%	100.0%	100.0%	建築事業部	-
		資源の有効活用(CO <sub>2</sub> 排出削減)	耐久性が高く長寿命の製品(ゴム素材品)の訴求を行います。	認知度アンケートの結果	80.0%	前年50.0→60.0%	120.0%	引布販売部	-
		製品(シリコンウエハー搬送ケース)のリユース事業を推進します。	リユース回数/年	127.4千個	目標127.4千→118.2千個(当社製新品ケースの出荷個数: 伸び率65.4%※8)	92.7%	工業資材販売部	P.11	
		地球温暖化対策(温室効果ガス削減)	硬質ウレタン発泡工程ならびに建築現場で発泡作業を行う際に使用する発泡剤のノンフロン化率を高めます。	ノンフロン発泡製品の販売比率	50.0%	前年43.0→46.0%	107.0%	断熱資材事業部	-
			建物リフォーム時に適した断熱資材製品の供給を通じて、冷暖房時のエネルギー消費量を抑え、CO <sub>2</sub> 排出削減に貢献します。	リフォーム用製品の出荷増加率	105.0%	前年95.0→111.0%	116.8%	断熱資材事業部	P.10
		環境汚染防止(建設工事現場)	環境汚染事故を防止するために必要な建設現場での作業標準を訴求します。	作業標準の理解度(アンケート結果)	前年+α	前年56.7→58.3%	103.0%	開発営業部	-
		環境負荷物質の使用量削減	規制物質の使用量削減を推進し、グリーン調達を目指します。	調達物に含まれる特定毒物の種類数	前年-α	前年6→6物質(環境負荷物質5物質と紛争鉱物)	100.0%	購買部	P.21
		廃棄物削減・エネルギー効率化	環境配慮率の改善に努めます。	環境配慮率((電力使用料+蒸気使用料+廃棄物処理費)÷生産金額)	3.52%以下	目標3.52%以下→3.45%	102.0%	全社	P.15
		老朽化対策・工場再編による設備投資で、省エネ、環境リスク・負荷低減を推進	環境関連設備投資計画を100%遂行します。	環境負荷低減物件完工率	100.0%	目標100.0→79.7%	79.7%	全社	
		大気汚染防止	環境負荷物質(DMF、トルエン、ジクロロメタン、酢酸エチル、MEK)の排出量を削減します。	排出削減量	2019年度実績比27.0%削減	目標27.0%削減→30.4%減	104.9%	全社	P.16
		エネルギー使用によるCO <sub>2</sub> 総排出量の削減	生産効率化、設備更新、事務所内の省エネ活動などを推進します。	エネルギー使用量(原単位)	2018年度実績比1.0%削減	目標1.0%減→2.8%増	96.4%	全社	P.15
		輸送に伴うエネルギー使用量の削減(CO <sub>2</sub> 削減)	モーダルシフト(鉄道などの大量輸送機関の利用)を推進します。	輸送に伴うエネルギー使用量(原単位)	2018年度実績比1.0%削減	目標1.0%減→0.2%減	99.2%	全社	P.14
		廃棄物総排出量の削減	3R(リデュース・リユース・リサイクル)を徹底し、資源を有効活用します。	廃棄物総排出量	2017年度実績比3.0%削減	目標3.0%減→6.7%減	103.9%	全社	P.15
完全ゼロエミッションの達成		廃棄物最終処分量	0.1%未満の維持	目標0.1%未満→0.001%	100.0%	全社			

CSR重要テーマ・活動方針	2019年度活動目的	具体的な取り組み	KPI (重要成果指標)			2019年度改善度*1	取組主体	関連ページ	
			目標値	実績値					
環境	水質汚濁防止	排水の水質汚濁を監視します。	工場排水の水質	工場排水基準値全項目遵守	全項目遵守	100.0%	全社	P.30	
			業務担当者の理解度 (確認テストの平均値)	平均: 90点以上 (100点満点中)	目標90.0 → 94.7点	105.2%	購買部	P.22	
公正な事業慣行	お取引先様との協働 お取引先様を含めたサプライチェーン全体における取り組みや、公正な事業活動を推進します	公正な事業慣行の醸成	下請法適用取引に関する法令遵守体制を点検、維持します。	当社基準以上の企業数比率	前年+α	前年92.0 → 93.0%	101.1%		購買部
		サプライチェーンを含むコンプライアンス経営の醸成	CSR調達アンケートを通じて、お取引先様への当社CSR調達方針の訴求とコンプライアンス経営を啓蒙します。	完了プロセス数	20プロセス (1人)	目標20 → 14プロセス (1人)	70.0%	車輛資材事業部	-
人権や多様性の尊重とグローバル人材の育成	人権に配慮し多様な人材を活用しグローバル人材を育成します 	グローバル人材の育成	グローバル人材に求める要素を満たすよう育成を行います (20の育成プロセスの実施)。	研修前後のアセスメントスコア	前年比 125.0%	前年100.0 → 133.5%	133.5%	全社	P.24
		従業員支援制度の拡充	育児・介護・病気と仕事の両立について法定を超える制度の拡充を推進します (販売拠点におけるフレックスタイム制導入)。	新施策の利用者比率	前年+α	前年100.0 → 105.0%	105.0%	全社	-
		働き方改革の推進	有給休暇取得率の向上を図ります。	有給休暇取得率	前年+α	前年47.5 → 54.6%	114.9%	全社	P.22
		アスリートサポート	アスリート、パラアスリート社員の活動を支援します (活動報告会実施、社内報等による啓蒙)。	大会やイベントへの応募者数の拡大と活動内容の啓蒙回数	前年+α	啓蒙数 前年8 → 14 (社内報 前年6 → 8回、掲示板 前年2 → 5回、活動報告会 前年0 → 1回、参加者55人)	175.0%	全社	P.23
		人権の尊重、侵害行為の防止	CSR調達アンケートを通じて、取引先への当社CSR調達方針の訴求と人権尊重経営を啓蒙します。	当社基準以上の企業数比率	前年+α	前年92.4 → 95.1%	102.9%	購買部	P.22
		安全で働きやすい健康的な職場環境	建設現場での安全衛生上の注意事項の訴求 安全で健康に働くことのできる職場づくりに取り組みます 	建設現場での安全衛生上の注意事項の訴求 当社独自の工法で作業を行う建設現場の作業員に対し、安全衛生上の注意事項を訴求し、事故の発生を防止します。	作業標準の理解度 (アンケート結果など)	前年+α	前年100.0 → 99.0%	99.0%	断熱資材事業部 開発営業部
健康経営の推進	健康イベントを実施します (本社健康セミナー、ウォーキングキャンペーンへの参画)。	参加者数	前年+α	ウォーキング参加者 前年325 → 378人 (健康セミナー: 前年1 → 3回、参加者: 前年24 → 76人)	116.3%	全社	P.23		
防火・防災体制の強化	防災体制の強化と活動を充実させ、本社従業員に対し救命講習を実施します。	救命技能認定者の比率	30.0%	前年20.0 → 28.0%	140.0%	全社	P.19		
安全・安心な職場環境の醸成	製造現場の従業員を対象に安全衛生に関する研修を定期実施するとともに、安全確認のための職場パトロールを実施し、職場環境の安全衛生を向上させます。	度数率	前年1.74以下	前年1.74 → 1.77	98.3%	全社	P.19		
地域との関わりと社会貢献活動	地域社会との共生	当社が主催あるいは地域社会が主催する行事に参画し地域社会との対話を行い、地域社会の要請に応える企業を目指します。	参画数	前年+α	前年2 → 3回	150.0%	引布販売部	P.25	
	健康・安らぎへの取り組み推進	産学共同開発によるイノベーションにより、睡眠の質を上げる寝具製品を開発します (快適な暮らしに役立つ製品を開発)。	快適な眠り効果 (快適性*9)	既存品以上の性能	従来品0 → 研究開発品1	100.0%	ウレタン事業部	P.10	
	海外拠点 (台湾) の地域社会とのコミュニケーション向上	阿基里斯先進科技 (台湾) のホームページを通じて、現地語で当社の活動内容を訴求します (2019年8月にホームページを開発)。	ホームページへのアクセス数	100件/月以上	目標100 → 105.6件 (8~12月間計 528件)	105.6%	工業資材販売部	P.11	
コミュニケーション・発展	地域社会とのコミュニケーションや社会貢献活動を重んじ、地域の発展に貢献します 								

CSR重要テーマ・活動方針	2019年度活動目的	具体的な取り組み	KPI (重要成果指標)		2019年度改善度*1	取組主体	関連ページ		
			目標値	実績値					
コミュニティ参画・発展	地域社会が抱える社会的課題の発掘と解決策の提案	自治体や地域に根ざした施工業者との対話を通じて、地域社会の課題を把握し、その課題に対する当社独自の工法提案を行います。	提案数÷自治体および施工業者の訪問数	前年+α	前年48.9 →52.9%	108.2%	開発営業部	-	
組織統治	ガバナンス・リスクマネジメント	BCP*10対応の推進	車両資材事業部におけるBCPを構築します。構築に必要な36のプロセスを順次完了させます。	完了プロセス数	24プロセス(3社)	目標24 →17プロセス	70.8%	車両資材事業部	-
	経営の透明性を高める制度の強化、リスク対策に取り組みます	株主総会議決権行使比率の向上	議決権行使を電子化して行使比率の向上を図ります。	議決権行使比率	前年+α*11	議決権ベース 前年79.3 →81.5%	102.8%	全社	P.21
		ガバナンス機能の実効性向上	激変する経営環境に対応すべく、年1回、取締役会の実効性評価を行い、課題の確認とその対応を通じて、さらなる機能向上に努めます。	実効性評価結果	4.0/5.0以上	前年3.9/5.0 →4.1/5.0	105.1%	全社	P.27
		公正な事業慣行の醸成	リスクに応じてコンプライアンス研修などを実施し、法令遵守の組織風土を醸成します。	理解度率(コンプライアンス意識アンケート)	95.0%以上	初回92.4→啓蒙後96.9%	104.9%	全社	P.27
		経営人材の育成	階層別研修を実施します。	研修受講者数*12	前年+α	受講者：前年670 →699人 (回数：前年35→48回)	104.3%	全社	P.23

- ※1 前年実績との比較を基本としていますが、前年実績がない取り組みならびに環境関係の取り組みの一部に関しては、目標との比較を記載しています。この場合、目標未達の場合、100%以下となりますが、課題は改善の方向に向かっていきます。
- ※2 2018年度は苦情返品数が急増していたため、目標は2017年度の実績を基準に策定しています。
- ※3 「フネンクリア」はアキレス株式会社の登録商標です。
- ※4 汎用軟質ウレタンフォームとは、密度20Kg/m<sup>3</sup>以下を指しています(当社基準)。
- ※5 アキレスは、靴の製造メーカーの責任として、子どもたちの足を守り、その健やかな成長を支援する「足育(そくいく)」を2013年に提唱し、その普及に努めています。
- ※6 啓蒙度=[足育(そくいく)相談室出前講座の回数]×[聴講された方の人数]  
2018年度の啓蒙度=40×2,360=94,400、2019年度の啓蒙度目標=55×2,800=154,000、2019年度の啓蒙度実績=63×3,652=230,076
- ※7 クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンスの通称名であり、地球規模の新たな課題である海洋プラスチックごみ問題の解決に向けたプラットフォームです。プラスチック製品の持続可能な使用や、代替素材の開発・導入を推進し、イノベーションを加速するため、159社・団体が参加し、2019年1月18日に設立され、国連が定める持続可能な開発目標「SDGs」の実現を視野に入れて、活動しています。
- ※8 2019年の前半は当社製新品ケースの出荷が増加したことに加え、中国からの米国向け半導体製品の輸出が減少したことが、リユース個数に影響しました。
- ※9 就寝時の寝具内温度が睡眠の質に深く関係しています。体温調整機能を高め、睡眠の質を向上させる製品開発を行う際、電子計測機器で測定された数値より、当社独自に眠りの深度を判定しています。
- ※10 BCP(事業継続計画)とは、自然災害などの被災を想定して事業継続が行えるよう、予め計画を策定しておくことです。また、計画に基づく訓練を定期的に行うことで災害発生時の対応力が高まります。
- ※11 議決権行使比率は、2019年6月期株主総会時と2020年6月期株主総会時の実績を根拠としています。
- ※12 受講者数は延べ人数です。

## 持続可能な開発目標(SDGs)とは

SDGsは、Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略語です。2030年までを期間として、2015年に国連で採択された国際目標で、17のゴールと169のターゲットで構成されています。P.5~8表内のCSR重要テ

マ・活動方針の下に配置したロゴは、アキレスグループがそれぞれの取り組みを通して貢献しているゴールを表しています。



# 特集 1

## CSR重要テーマに関する活動紹介

アキレスでは、重要度の高い取り組みを「CSR重要テーマ」と位置づけています。ここでは、CSR重要テーマに関する、各事業部ごとの活動について紹介します。

### 化成事業部

#### 海洋廃プラスチックへの対応



海洋プラスチックごみを削減するためには、廃棄物の適正管理に加え、プラスチック製品の3R<sup>\*1</sup>の取り組みの強化や、生分解性に優れたプラスチック、紙などの代替素材の開発と普及の促進などが必要です。そこで、業種を超えた幅広い関係者の連携を強めイノベーションを加速するためのプラットフォームとして、「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス (通称：CLOMA) <sup>\*2</sup>」が設立されました。

当社はCLOMAに参加し、生分解性プラスチック素材のフィルム製品を主に農業や林業用に広く普及させるよう、開発ならびに販売に取り組んでいます。



クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス  
<http://www.jemai.or.jp/cloma/>



生分解性プラスチック素材  
農業用フィルム  
<https://www.achilles.jp/product/agriculture/horticulture/bioflex-multi/>

<sup>\*1</sup> 廃棄物の発生抑制 (リデュース)、部品などの再利用 (リユース)、再生資源としての再利用 (リサイクル) の略語。  
<sup>\*2</sup> 地球規模の新たな課題である海洋プラスチックごみ問題の解決に向け、プラスチック製品の持続可能な使用や代替素材の開発・導入を推進し、イノベーションを加速化するため、159社・団体が参加し、2019年1月18日に設立。国連が定める持続可能な開発目標「SDGs」の実現を視野に入れて活動をしています。

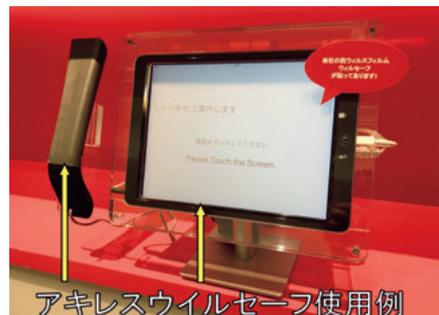
### 化成事業部

#### 抗ウイルス性機能フィルム



当社は災害対策用などを含め、機能性製品の開発に注力しています。「アキレスウイルセーフ」は、フィルム表面に付着したウイルスや細菌を99.99%以上低減し、その活動を抑制する機能を持つフィルムです。高い抗ウイルス機能を有し、ウイルスが付着した直後から素早く効果を発揮するとともに、安全性に配慮した材料を使用しているため、安心して使用できます。

接触によるウイルス・細菌の感染拡大の抑制に寄与し、人々の安全で安心な暮らしを支える製品として、多くのお客様から支持されています。



アキレスウイルセーフ使用例  
タッチパネル表面や受話器に貼り付けた事例  
<https://www.achilles.jp/product/manufacturing-facility/film/functional-flexible-film/>

### 引布販売部

#### 感染症対策用テント



当社は、社会的な課題となっている感染症の拡大に対応する、陰圧式エアertentの製造を行っています。

陰圧式エアertentは、ウイルスなどの拡散を抑制する機能を持ち、医療機関の屋外に発熱外来の受付場所として設置することで、院内感染のリスクを低減することが期待できます。

大型のテントが容易に組み立てられることが特長のエアertentに、ウイルスにも対応するHEPAフィルターを搭載した空気清浄機を組み合わせています。テント内の空気圧を大気圧より下げることで、ウイルスなどが、テント外に拡散することを抑制します。



感染症対策用陰圧式エアertent  
<https://www.achilles.jp/product/medical-lifesaving/lifesaving/medical-tent/>

## 救助用ボート



2018年西日本豪雨、2019年台風19号と、毎年のように大規模な水害が発生しています。当社では、約60年にわたりゴムボートを製造してきた経験を生かし、水害に対応したボートの開発に取り組んでいます。

水害救助現場で要求されるさまざまな課題に対応するため、運搬しやすさや破れにくさの追求など、使用環境に合わせた製品開発を続けています。

最近では、当社レスキューボートの導入が各地で進み、全国で発生する水害の救助現場で貢献を続けています。



水難救助用ボート

<https://www.achilles.jp/product/medical-lifesaving/lifesaving/pro-use-boat/?tab01>

## 暮らしを快適にする製品



「眠ることの効能」や「どのような条件が眠りの質を高めることに有効なのか」を、大学の研究室と共に試験を繰り返しています。さまざまなファクターを調べるため、1回の試験と解析にかなりの時間を要することから、開発すべき機能の最適解を見出すことに苦労しています。今も試行錯誤中ですが、より眠りやすい寝具を、1日も早く市場に出せるよう、開発を続けています。

なお、当社では眠りの質を高める製品のひとつとして、独自開発した製品を当社WEBサイトで販売しています。



「フレアベル サーマフェーズ」※4  
ベッドマットレス  
アクティブモデル  
<https://www.achilles-freabell.jp/lineup/active.php>

※4 眠りの質を決める就寝時の身体近傍温度33℃前後へ自動調節する新素材サーマフェーズ®を採用し、入眠をサポート。圧力分散に優れる中反発®フォームと寝返りしやすい高反発フォームの2層構造。1人で寝ても2人で寝ても快適な寝心地を実現。210ニュートン超硬めマットレスが腰の沈み込みすぎを抑え、理想的な寝姿勢をサポートします。

## 建物の省エネ対策



建物の保温性を高めることで、冷暖房時のエネルギー消費量を抑える(省エネ)効果が高まります。高性能な断熱材は、建物の保温性を高め、省エネ効果を発揮できるのです。

当社では、極めて高い断熱性能を備えた断熱材複合パネル「アキレスJDパネル」※3を2019年12月に発売しました。既存の木造住宅の壁や天井を壊さずに、パネルを上張りすることで、短期間に断熱改修を行えます。床には、曲げられる性質を生かした「アキレスジュウテンR」を床下からはめ込むことで、解体せずに底冷えを低減します。アキレスは、高性能かつ高機能な断熱材によるリフォームで、生活環境を改善し、健康な暮らしに貢献していきます。



※3 断熱性能熱伝導率0.018W/(m・K)によりパネルの厚みを29.5mmに抑えられたことで、居住スペースを大きく狭めることなく断熱改修が可能です。

「アキレスジュウテンR」の施工風景

<https://www.achilles.jp/product/construction/insulation/>

## デジタル社会を支える縁の下の力持ち



5G※5やAI※6、自動運転などの生活のデジタル化に欠かせないのが、静電気対策です。半導体の生産工程では、少しでも静電気トラブルがあると、部品の破損や品質低下を引き起こすなど、機器自体の性能などに影響を及ぼします。

「プロトスキャリア」は、当社プラスチックコア技術に独自の静電気対策技術を取り入れた製品です。半導体の生産工程や輸送時において、静電気による破損を防止します。

当社では、静電気対策セミナーや現場診断も行っており、未来の快適な社会をつくるデジタル技術を下支えしています。

※5 携帯電話などに用いられる次世代通信規格の5世代目を表す「5th Generation」の略。

※6 Artificial Intelligence(人工知能)の略。



静電気対策セミナー風景

当社「プロトスキャリアNA-300LA」  
<https://www.achilles.jp/product/electronics/packing-materials/protos-carrier-ma/>

# 特集 2

# 海外での CSR活動

## アメリカ合衆国

### ACHILLES USA, INC. (HEADQUARTERS)の取り組み



ACHILLES USA, INC.が、地域の電力会社Snohomish PUDとパートナーシップを結び、スマート・エネルギー・マネジメントプログラム\*に参加してから3年が経過しました。

2019年度の電力量は、新設備の稼働などにより、前年度より3.7%増加しましたが、契約基準値より2.7%削減することができました。また、各年度の電力使用量は基準値を下回り、電力会社からプログラム奨励金を全額受け取る権利を得ることができました。

使用電力削減のために行った活動は、ドア枠シーリングの補修から空調の再調整と多岐にわたりますが、最も重要な活動はフィルム製造に使用するカレンダー設備の降温作業の見直しでした。また従業員に、ギフトカードの抽選券を兼ねたタグを圧縮空気漏れ箇所へ付けてもらう、というプログラムも実施しました。この試みは、従業員の主体性と責任感を高めるとともに、空気漏れによるコンプレッサーへの負荷の軽減や、消費電力の削減につながりました。

\*電力会社が決めた電力使用量基準値を下回することで、企業が奨励金を受け取るプログラム。



圧縮空気が漏れている箇所へのタグ付け



ギフトカード抽選の応募箱

## 香港

### ACHILLES HONG KONG CO., LIMITEDの取り組み



当社ブランドの「瞬足」は香港でも人気の子ども靴であり、ブランドの訴求と併せて、身体に合った靴の選び方の啓蒙活動を、香港でも行っています。



養護学校(靈實恩光學校)の生徒とご家族



足型測定実施準備の風景(靈實恩光學校)

2019年4月8日には足育活動の一環として、靈實恩光學校において、生徒への足型測定を実施しました。同校は、当社が毎年協賛を行っている、「バランスバイク大会」を主催する靈實協會(Haven of Hope)が運営する養護学校の一つです。後日、フィッティング結果をもとに、全生徒へ各自に適したサイズの「瞬足」など、108足を寄贈しました。

## 中華人民共和国

### 阿基里斯(上海)國際貿易有限公司の取り組み



阿基里斯(上海)國際貿易有限公司は、毎年、中国内の貧困地域の小学校へ、「瞬足」を寄贈する活動をしています。4回目となる2019年は、ボランティア団体UU愛心公益と協力して、四川省の貧困地域の小学校へ「瞬足」70足を寄贈しました。

また、上海の百貨店では定期的に足型測定会を開催し、正しい靴の選び方や履き方を啓蒙する活動も行っています。



貧困地域の小学校での寄贈式(中華人民共和国四川省)



百貨店の「瞬足」売り場での足型測定会(中華人民共和国上海)

## 台湾

### 阿基里斯先進科技股份有限公司の取り組み



阿基里斯先進科技股份有限公司は、台湾・新竹市に拠点を置く、当社の生産販売拠点です。半導体シリコンウエハー搬送用のプラスチックケースの再利用(リユース)をメイン事業とし、廃棄プラスチックの削減を推進しています。

使用済みのウエハー搬送ケースを阿基里斯先進科技が回収し、それらをクリーンルームで洗浄した後に世界各国の半導体ユーザーに返却しています。世界規模のリユースネットワークを構築することで、2019年度は約140トンの廃棄プラスチックの削減に貢献しました。また、この活動を阿基里斯先進科技のホームページで広く啓蒙しています。



クリーンルームで洗浄されるアキレス製ウエハー搬送ケース



阿基里斯先進科技ホームページでの啓蒙活動  
[https://www.achilles-at.com.tw/big5/csr\\_02#a1](https://www.achilles-at.com.tw/big5/csr_02#a1)



# 環境のために

地域および地球規模の環境保全は、シューズ、ゴム、プラスチック製品といった化学原材料による製品の製造を中心に事業展開するアキレスにとって、極めて重要な使命です。当社は事業活動が環境と深く関わっていることを認識し、環境負荷低減に努め持続可能な社会の発展に貢献します。

## アキレスグループ環境方針

アキレスグループは、「社会との共生」=「顧客起点」の企業理念のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を続けることを基本に、シューズ、ゴム、プラスチック製品の製造、販売を主体に事業活動を推進しています。

環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動の必須の要件として、環境負荷の低減に主体的に活動するとともに、新たな価値を創り続けることで、豊かで快適な社会づくりに貢献し、高い信頼を得る企業を目指します。

1. 事業活動による環境への影響を的確に把握し、環境目標を定め、その実現を図ります。
2. 環境監査等により定期的に環境管理システムを見直し、継続的改善を図るとともに、環境汚染の予防を徹底します。
3. 環境に関係する法令・条例・協定および会社方針・規則等を遵守します。
4. 事業活動を通じて、環境配慮型の商品開発、地球温暖化防止と省エネルギー、気候変動への適応、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進を行い、健全な環境の維持・向上に努めます。
5. 事業活動が環境に与える影響を全員が認識し、適切な行動が取れるよう教育・社内広報活動に努め、環境保全への意識向上を図ります。

## 環境マネジメントシステム

### ISO 14001への取り組み

地球環境保全のため、そしてアキレスグループの体質強化のため、環境マネジメントシステムISO 14001をツールとして活用し、その中で環境方針、環境目標を定めて、環境負荷低減につながる生産工程および製品づくりを推進し、継続的に環境改善活動に取り組んでいます。2019年度は、ISO 14001:2015/

第1回サーベイランスを受審し、観察事項として37件の指摘があったものの、大きな欠点はなく登録が維持されました。

**P.29 ISO 14001:2015登録事業場 JUSE-EG-661**  
(2018年7月更新・登録)

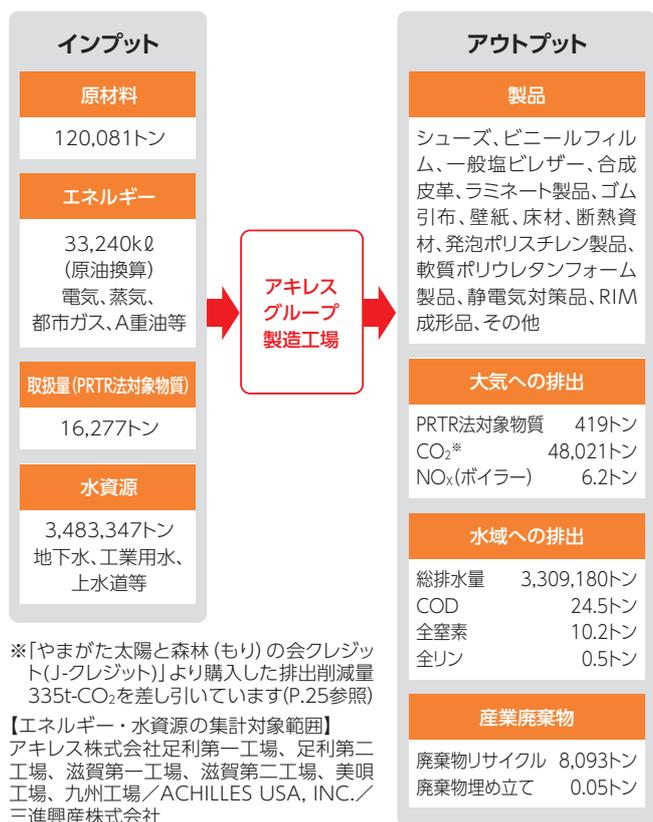
### ●2019年度活動結果概要・2020年度以降目標

項目	目標		2019年度実績	評価	2020年度以降目標	掲載ページ
	管理項目	値				
地球温暖化防止と省エネルギー	エネルギー原単位	前年度比、1%削減	前年度比、2.8%増加	×	前年度比、1%削減	P.15
3R活動による完全ゼロエミッション	廃棄物排出量 ※3R活動推進を基本とする	2017年度比、3%削減	2017年度比、6.7%削減	○	2017年度比、10%削減	P.15
	廃棄物の最終処分率	2020年度までに、0.1%未満を達成	0.001%	○	2020年度までに、0.1%未満を達成	
環境負荷物質の大気汚染防止	環境負荷物質排出量	2010年度比、27%削減(2020年度までに2010年度比、30%削減)	30.4%削減	○	2010年度比、30%削減	P.16
環境配慮(廃棄物削減、省エネなど)と環境管理の改善と環境配慮型の商品開発	環境配慮率* ※(エネルギー使用料+廃棄物処理費)÷生産金額×100	前年度実績以下	前年度比、2.0%削減	○	前年度実績以下	—
	環境リスクの特定と対策立案	老朽化対策・工場再編による環境リスクと環境負荷低減	環境負荷低減につながる設備の導入・改造などを計画・実施	○	老朽化対策・工場再編による環境リスクと環境負荷低減	P.29
	環境配慮型製品の上市・販売	社内目標による	生分解性フィルム、原子力発電所向け製品等環境配慮型製品の販売目標、上市を達成	○	環境負荷を考慮した商品開発・研究開発の推進・上市	P.9 P.10

## 環境負荷の全体像

アキレスグループでは、事業活動に伴う物質・エネルギーのフローを定量的に把握し、会社の持続的発展に向けて、事業活動での環境負荷の低減、資源の有効活用に努めています。下記に、アキレスグループ製造工場の環境負荷の全体像を示します。

### ●マテリアルバランス



## 環境事故などに対する是正処置

2019年度は足利第二工場において、1件の外部流出環境事故が発生しました。工場内で白色の水性インクがこぼれ、近くの排水溝から白濁水が外部へ流出しました。なお、水性インクには環境に影響を与える有害物質などは含有されていません。

本件発生後、行政へ報告および是正報告書を提出しています。

また、2019年度の各事業場の水質、大気および騒音の実績値は、全て環境関連法規の基準値内でした。

## 意識啓蒙活動

環境保全活動は、従業員一人ひとりの意識と行動がなければ実施できません。

アキレスグループでは、新入社員研修、階層別研修などの実施や、専門知識の習得、資格取得にも積極的に取り組んでいます。

また、社内イントラネットで環境関連情報を発信し、環境保全活動の重要性を周知しています。

## 生物多様性への取り組み

### 生物多様性についての基本的な考え方

アキレスグループでは、人間社会が生態系から恩恵を受ける一方で、大きな負荷をかけていることを認識し、生物多様性の保全に貢献する取り組みを推進しています。

### 日光杉並木オーナー制度

日光杉並木街道は、およそ370年前に植えられた杉の巨木が日光街道・例幣使街道・西会津街道の三つの街道にまたがる壮大な杉の並木道です。三つの街道のうちの一つである例幣使街道が当社足利工場のある足利市を通過していることもあり、近年の周辺環境の悪化から杉並木を保護するための「日光杉並木オーナー制度」に賛同し、保全に協力しています。



日光杉並木

### 琵琶湖森林づくり基金への寄附

当社が製造拠点を置く滋賀県には、重要な水源である琵琶湖があります。また、琵琶湖をとりまく森林は琵琶湖や淀川流域の重要な水源林であると同時に多様な生物の生息域でもあります。

滋賀県では、この重要な環境を保全すべく森林づくり事業を推進しており、当社はこの活動を支援しています。



琵琶湖周辺森林での間伐イメージ  
(画像提供：滋賀県)

## 水資源の保全

当社では、毎月排水の自主測定を実施し、使用後の排水を環境に影響のない状態で河川へ排出しています。なお、当社足利第二工場および滋賀第一工場、昆山阿基里斯新材料科技有限公司では、工業用水の一部を循環使用しています。

### 「水質事故被害拡大防止訓練」へ参加

当社では、滋賀県ならびに湖南・甲賀環境協会などが万が一の事故発生を想定して行っている「水質事故被害拡大防止訓練」

に積極的に参加し、琵琶湖を含む周辺の環境保全の重要性を再認識しています。2019年9月26日に行われた訓練は、協会会員・県・市環境行政など総勢186人が参加しました。



吸着マットによる浮上油回収訓練 (滋賀県)

## 地球温暖化対策

### 温室効果ガス排出量の削減

アキレスグループが排出する温室効果ガスは、エネルギー使用(燃料、電気など)と、硬質ウレタンフォーム製造(フロン系をCO<sub>2</sub>に換算)に伴う二酸化炭素排出が主体です。

2019年度は、省エネ設備の導入などの環境投資に加え、硬質ウレタンフォームのノンフロン化率向上を図りました。また、生産量減少に伴うエネルギー使用量の減少もあり、温室効果ガス排出量は2018年度比で約5.6%減少しました。

#### P.29 温室効果ガス排出量推移

※「やまがた太陽と森林(もり)の会クレジット(J-クレジット)」より購入した排出削減量335t-CO<sub>2</sub>は差し引いていません(P.25参照)

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社/アキレスウエルダー株式会社



### 太陽光発電によるエネルギー創生

当社は、足利・滋賀合計で発電容量1,535kWの太陽光発電設備を設置しています。

2019年度は、約1,733kWhの電力を発電し、679t-CO<sub>2</sub>相当のCO<sub>2</sub>排出量を削減しました。これは当社グループのエネルギー使用によるCO<sub>2</sub>排出量の約1.6%に相当します。

#### P.29 太陽光発電設備



アキレス株式会社足利第二工場



アキレス株式会社滋賀第二工場

## 物流の環境保全活動

### 二酸化炭素削減活動と排出量実績

当社は、モーダルシフト<sup>\*1</sup>と積載率・大型車利用率向上を通じて、輸送に伴うCO<sub>2</sub>排出量の削減を推進しています。

2019年度は、輸送に関わるエネルギー原単位を約0.2%向上させ、CO<sub>2</sub>排出量<sup>\*2</sup>を約8.8%削減しました。また、輸送トンキロ<sup>\*3</sup>は、生産量の減少に伴い、約8.6%減少しました。

※1 貨物輸送をトラックから鉄道や船に換えることで、一度に大量の貨物を輸送することができ、CO<sub>2</sub>排出量を抑えることができます。

※2 CO<sub>2</sub>排出量(t-CO<sub>2</sub>)=エネルギー使用量(GJ)×排出係数(経済産業省より)

※3 輸送トンキロ=貨物重量「トン」×輸送距離「キロメートル」



鉄道輸送用のコンテナへの積み込み

#### P.29 輸送に伴う二酸化炭素排出量・モーダルシフト率

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場



## 省エネルギー

### 省エネルギー活動

アキレスグループでは、省エネルギー法に基づいた省エネルギー活動の重要性を認識し、環境負荷軽減の重点取り組み事項の一つとして全社を挙げて取り組んでいます。

#### エネルギー使用量(原油換算)

2019年度エネルギー使用量は、前年度に対して約5.6%(1.6千kℓ/年)減少しました。設備改善によるエネルギー効率の向上に加え、生産量減少に伴い、エネルギー使用量が減少しました。

#### 📖 P.29 エネルギー使用量(原油換算)の年度別推移

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社/アキレスウエルダー株式会社

#### エネルギー使用量(原油換算)

約**5.6%**  
減少  
(2018年度比)

#### エネルギー原単位

2019年度は、「2018年度エネルギー原単位実績に対し1%削減」を目標に、設備改修や省エネ設備の導入を行いました。生産量の減少による影響(小ロット化などの非効率化)により、

2018年度に比べ約2.8%増加し、目標値には達しませんでした。

今後も、省エネルギー活動を継続し、前年度エネルギー原単位1%削減を推進します。

#### 📖 P.29 全社および管理指定工場ごとのエネルギー原単位の年度別推移

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場

#### エネルギー原単位

約**2.8%**  
増加  
(2018年度比)

#### 設備の改造・導入による使用エネルギー削減

2019年度は、高効率化機器への更新、既存設備の効率稼働、照明のLED化などによる使用エネルギー削減に取り組みました。

#### 📖 P.29 設備の改造・導入の主な内容と使用エネルギー削減効果(原油換算値)

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

#### 設備の改造・導入による使用エネルギー削減効果

約**330kℓ**  
削減  
(原油換算値)

## 3R活動と完全ゼロエミッション

### 廃棄物の削減に向けて

循環型社会の実現を目指して3R\*活動を推進しています。特に廃棄物の発生量自体の削減を目指す発生源対策(リデュース)を重視し根本原因を追究、廃棄物の発生抑制に注力しています。

\*廃棄物の発生抑制(リデュース)、部品などの再利用(リユース)、再生資源としての再利用(リサイクル)の略語。

### 廃棄物等\*削減活動結果

2019年度は、「2017年度廃棄物排出量実績に対し3%削減」を目標に活動し、約544トン約6.7%削減となり目標を達成しました。これまで廃棄物となっていたものを有価物として販売できるようになったことが削減の大きな要因です。今後も、既存のリサイクルフローを見直し、廃棄物の分別・選別の徹底、有価物化や廃棄物の再製品化等を推進し、生産量の増加に対していかにして廃棄物発生量を抑制するかを課題とし、廃棄物の削減に注力していきます。

#### 📖 P.30 廃棄物等総排出量

\*廃棄物等：産業廃棄物と再資源化物を含めたもの。

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

#### 廃棄物等総排出量

約**544トン**  
約**6.7%**  
削減  
(2017年度比)

### 最終処分量状況

2019年度は、「完全ゼロエミッション(最終処分率\*0.1%未満)を2020年度までに達成」を目標に活動した結果、最終処分率は約0.001%(約0.05トン)となり、2018年度の0.03%に引き続き、完全ゼロエミッションを達成しました。

今後も完全ゼロエミッションの継続を目指し、分別・選別のさらなる徹底およびリサイクルに取り組んでいきます。

#### 📖 P.30 最終処分量および最終処分率

\*最終処分率(%) = 最終処分量 / 総排出量 × 100

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

#### 最終処分率

約**0%**  
(2019年度実績)

## 大気汚染防止

### 環境負荷物質の大気排出削減目標

アキレスグループは、「環境負荷物質の大気汚染防止」を全製造部門の共通テーマとしています。中長期目標としては「環境負荷物質の大気排出量を2010年度に対し、2020年度までに30%削減」を掲げ、労働安全衛生法、PRTR\*法および大気汚染防止法に基づき、大気排出量の計画的な管理・削減に取り組んでいます。

※Pollutant Release and Transfer Register：有害性のある多種多様な化学物質が、どこから、どのくらい、環境中に排出されたか、廃棄物として移動したかを把握し、集計・公表する仕組み。

### PRTR法第一種指定化学物質削減

PRTR法に則り、該当物質の排出量などを把握した結果、2019年度のPRTR法第一種指定化学物質の年間排出量は約403トン（2010年度比約40.8%削減）、年間移動量は約205トン（同約11.4%増加）となり、年間の排出量・移動量は約608トン（同約29.7%削減）となりました。

#### P.30 PRTR法対象化学物質の排出量・移動量

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場／アキレスマリン株式会社



### VOC大気排出量削減

PRTR法対象物質を含むVOC\*物質の中で特に大気への排出量の多い5物質（DMF、ジクロロメタン、トルエン、MEK、酢酸エチル）を「環境負荷物質」と定め、全製造部門でVOC物質から非VOC物質の代替物質への移行や排煙処理装置（RTO）導入による大気排出量の削減を推進しています。

2019年度は、2010年度比27%削減を目標に取り組んだ結果、約30.4%削減となり目標を達成しました。

#### P.30 環境負荷5物質の大気排出量

※Volatile Organic Compounds：揮発性有機化合物の略称。空气中に揮発する性質のある有機化合物。

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場／アキレスマリン株式会社





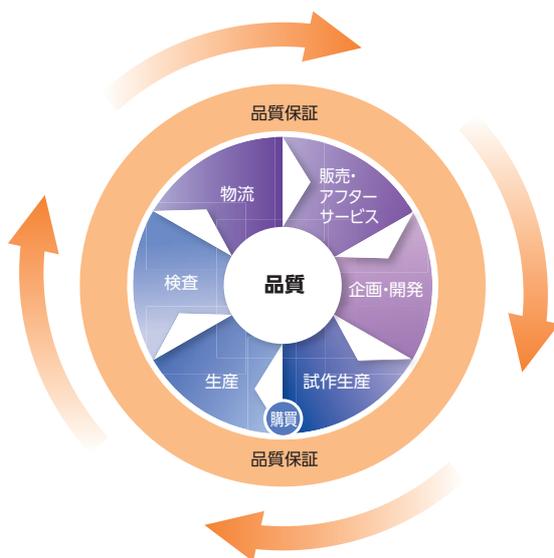
# 社会と共に

アキレグループは製品やサービスを通じて、より豊かで快適な社会づくりに貢献することを目指しています。また、さまざまなステークホルダーとの対話を通して取り組むべき課題を特定し、その対応に努めることで、社会の持続的発展に貢献したいと考えています。そして「アキレ調達基本方針」を定め、法令遵守や人権尊重などを含む企業の社会的責任(CSR)への取り組みをサプライチェーンに広める努力を行っています。

## 品質への取り組み

### 品質への考え方とマネジメントシステム

アキレグループでは、「製品の安全性と品質の確保」を全従業員が徹底するよう、「アキレ行動指針」を定めています。また、お客様のニーズや市場動向を的確に捉え、お客様に満足していただける製品・サービスを提供する仕組みの基準として、全事業部で品質マネジメントシステムの国際規格(ISO 9001)を取得し運用しています。そして「品質マニュアル」で、各事業部の事業部長が品質保証の責任者として品質目標を設定し、安全で安心な製品・サービスの提供に努めることを定めています。



### アキレグループ品質基本方針

当社は、「社会との共生」＝「顧客起点」の企業理念に基づき、顧客や消費者の立場に立って顧客満足を得られる製品を提供すると共に、製品の安全性確保や関連する法令等を遵守し、社会的責任を果たす為に下記の基本方針を定めます。

1. 全員が市場の声に耳を傾け、顧客のニーズに応えた魅力ある製品・サービスを提供する。 **【顧客満足の上昇】**
2. 使用時の安全性確保は製品の品質保証の中でも重要事項である事を認識し、製品の設計、製造、販売など全工程にわたって製品安全の確保に努める。 **【製品安全の確保】**
3. 製品に係わる法令及び当社が同意した規格、顧客基準を遵守する。 **【法令遵守】**
4. 環境負荷低減に配慮した製品の設計、製造、販売活動を行う。 **【環境への配慮】**
5. これらの活動を効果的・効率的に行うために業務を見直し、継続的な改善を進める。 **【継続的改善】**

### ●ISO 9001 : 2015登録状況

登録組織名	登録年月	登録番号
アキレ(株)シューズ部門	2007年10月	JUSE-RA-2088
アキレ(株)プラスチック部門	2003年 4月	JUSE-RA-2090
アキレ(株)産業資材部門	2004年 2月	JUSE-RA-2089
ACHILLES USA, INC.	1998年 4月	33354

### 品質保証の仕組み

当社の品質保証本部は、各事業部の製品企画・開発、生産、販売の各プロセスにおいて、適宜適切な提案を行い、品質保証体制の維持・向上に努めています。

#### 企画・開発

- お客様からのご要望および安全・安心を考慮した製品設計を行っています。
- 素材および使用材料の安全性の検証をしています(使用禁止・制限化学物質、および健康に影響を与える物質を含まないことを確認)。
- 製品の加工時、施工時、および使用時を想定した要求物性への適合試験を実施しています。
- 製品ごとに品質保証部を交えたデザインレビューを実施しています。

#### 購買

- 企画・開発、製造部門と連携し、使用する材料の安全性、環境性、および調達先の品質保証体制などを調査した後、購買品を選定しています。
- 調達先には「アキレ調達基本方針」の遵守を促すことで、企業の社会的責任(CSR)への取り組みをサプライチェーンに広めています。また調達活動においていかなる違反行為にも加担しません。

#### 生産

- 製品ごとに生産ラインに適した工程管理と検査方法を定め、効率生産と品質安定化を推進しています。
- 地球環境への負荷低減を図るため、地球温暖化防止と省エネルギー、3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動や大気汚染防止などを推進しています。
- 製品の品質向上および技能レベル向上を目的に、全ての従業員

員に対し教育指導を実施しています。

- メンバー全員でQC活動に取り組み、工程や品質問題の解決改善活動を実施しています。

### 販売・アフターサービス

- お客様からの当社製品・サービスへのご相談やお問い合わせは、販売担当部署でお受けする以外に「お客様相談室」でもお受けしています。いずれの窓口でも、お客様のお声に耳を傾け、迅速に対応するように努めています。
- 想定外の重大問題が予想される場合は、お客様の安全を第一に考え、情報開示と迅速な対応を行います。
- 環境対応設計製品に関しましては、お客様が類似他品との環境効果を容易に比較できるように努めています。

## 品質改善プログラム

生産ラインの工程管理と検査方法が適正であることを、「品質確認パトロール」で確認しています。独立した立場として、品質保証部が、生産ラインという「現場」で、原材料を含めた「現物」を見ながら、標準化された作業で製品が生産されている「現実」を確認します。加えて、ほかの生産ラインの「品質確認パトロール」で得た、より良い仕組みや最新技術の情報を、水平展開して改善提案し、生産ラインでのPDCAを支援し、品質向上を促進しています。



品質確認パトロールの風景

## 労働安全衛生・防火防災への取り組み

### 労働安全衛生の考え方とマネジメントシステム

#### アキレスグループ安全衛生方針

「安全の誓い」にうたわれている、「健康にして、安全の確立こそ、会社発展の源であり、私たちの明日への生活向上の基盤であります。私たちは、安全を確保し、人の和を築き、私たちの明日への活力を生み出すことを日々心新たに誓います。」のように、安全と健康の確保は事業活動の基本であり、安全で働きやすい職場環境を確保するために、次の事項を実施します。

1. 安全は全ての基本であり、アキレスグループ従業員一人ひとり、安全を全てに優先します。
2. 安全と心身の健康確保のため、全員参加で、安全衛生活動を積極的に推進します。
3. 安全衛生に関する法令および会社方針・規則等を遵守します。
4. 安全衛生水準向上のため、労働安全衛生マネジメントシステム等を適切に活用し、継続的改善を図ります。
5. 日ごろより、5S(整理・清掃・整頓・清潔・躰)を欠かさず、安全で衛生的な職場環境を維持します。
6. 全ての従業員に対して、安全衛生の重要性を周知し、必要な教育・訓練を実施します。

ます。また、作業・設備・化学物質のリスクアセスメントを実施し、結果に基づく改善を行い、本質安全化を図っています。

#### ●安全衛生委員会委員割合

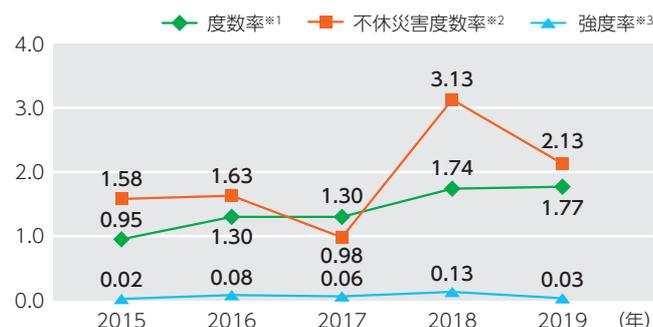
事業場	安全衛生委員	従業員数	従業員に対する安全衛生委員の割合
東京本社	12人	283人	4.2%
関西支社	6人	79人	7.6%
足利第一工場	19人	570人	3.3%
足利第二工場	16人	302人	5.3%
滋賀第一工場	12人	100人	12.0%
滋賀第二工場	14人	122人	11.5%
合計	79人	1,456人	5.4%

※2020年3月31日時点。

#### 労働災害の状況

2019年の当社における労働災害の発生状況は、下記の通りです。2019年の製造業(従業員1,000人以上)の平均度数率0.26、平均強度率0.04に対し、当社は、度数率1.77、強度率0.03でした。

#### ●度数率・不不休災害度数率・強度率(単体)



※1 労働災害(休業)による死傷者の発生頻度を示す指標

度数率=労働災害死傷者数÷延べ実労働時間数×1,000,000

※2 労働災害(不不休)による傷病者の発生頻度を示す指標

不不休災害度数率=不不休災害者数÷延べ実労働時間数×1,000,000

※3 労働災害の発生頻度を示す指標

強度率=延べ労働損失日数÷延べ実労働時間数×1,000

### 主な安全衛生管理活動

#### 安全衛生

当社では、各事業場で安全衛生委員会を設置し、従業員へは法・指針に基づいた安全衛生教育の実施、法に基づく各種有資格者の養成など、安全衛生体制を確立してい



フォークリフト運転業務従事者安全衛生教育(滋賀第二工場)

## 安全意識の啓発

当社では、安全への意識高揚のため、年間行事として年2回の安全祈願(年初と全国安全週間初日)を実施し、年初には社員が各自記入した「安全の誓い」を各職場に掲示しています。また年間を通じて各種無災害運動(全国安全週間、年末年始、期末)や、交通安全運動を実施しています。2019年度は、交通安全への意識高揚のため、足利・滋賀地区において、所轄の警察署の協力により交通安全講話を実施しました。



安全祈願(足利第一工場)

## 健康管理

当社では、定期健康診断および特殊健康診断およびストレスチェックを実施し、結果に応じて産業医・看護師による事後対応の指導を実施しています。健康診断結果以外にも社員の心と身体の悩みに対して、産業医などによるメンタルヘルスケア、健康相談・指導を実施しています。また、THP(トータル・ヘルスプロモーション・プラン)推進活動として、各種健康増進イベントへの参加を促進しています。



健康づくり講演会(足利市)



健康づくり実践教室(足利市)

## 防火・防災への取り組み

### アキレスグループ防火・防災基本方針

防火・防災は企業の基本管理項目であり、火災発生や地震に代表される自然災害を被ると、それまでの状況が一変して会社存亡の危機に直面することがあります。また、地域住民に多大な迷惑をかける懸念もあり、社会公共の福祉の増進にも反します。

アキレスでは、日頃から緊急事態に備え、身体及び財産を保護する予防措置を講じ、災害発生を未然に防止すると共に、万一発生した場合の人的・物的被害を最小限に抑えることに努めています。

## 総合防火・防災訓練

当社では、各地区で防火・防災委員会を設け、各事業場においては、防火・防災意識の啓発・高揚および防火活動に関する技術の習得を目的とした、総合防火・防災訓練を毎年定期的に行っています(製造部門社内火災予防運動は年3回実施、本社・関西支社防災訓練は年1回以上実施)。

2019年度は足利第一工場において、所轄の消防署との連携で総合防災訓練を実施しました。訓練では、震度6強を想定した、

初動対応、通報、避難、安否確認訓練、負傷者の救出・手当での訓練などを実施しました。



足利第一工場での総合防災訓練

## 心肺蘇生法講習会

2019年度は、足利第一工場(27人受講)および滋賀第二工場(11人受講)において、所轄の消防署による心肺蘇生法(人工呼吸、心臓マッサージ、AED機器の取扱訓練)の講習会を実施しました。

また、本社では救命技能検定講習を実施し、37人が資格を取得しました。毎年、心肺蘇生ができる従業員を育成しています。



足利地区での心肺蘇生訓練



滋賀地区での心肺蘇生訓練



東京本社での救命技能検定講習

## 安全道場

2019年10月、足利第二工場と滋賀第二工場に「安全道場」を開設しました。「安全道場」では、従業員が安全体感装置で過去に発生した事例に基づく危険を疑似体験できるため、座学講習に加えて危険感受性を高める効果が期待できます。当社では、作業経験の浅い従業員を中心に、災害の未然防止につながる取り組みを進めています。



足利第二工場



滋賀第二工場

## 食料などの備蓄

当社の各事業場では、震災などの有事に備え、食料や水などを備蓄しています。

## お客様と共に

### 基本的な考え方

当社は「社会との共生」＝「顧客起点」の企業理念のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献することを目指しています。また、お客様の顕在的・潜在的ニーズを把握するため、お客様との対話の機会を大切に考えています。その役割を担う窓口の一つとして「お客様相談室」を設けています。

### 対応品質向上への取り組み

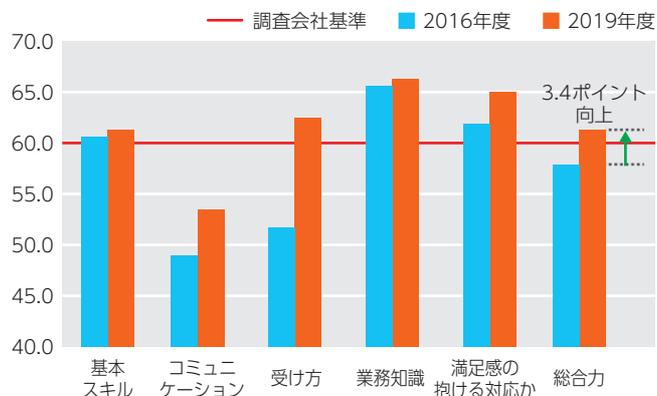
お客様相談室では2019年度は「お問い合わせ」と「ご意見」を合わせて、5,720件(前年度より約1,000件増加)のお電話やメールなどをいただきました。従来はシューズ製品に関することが中心でしたが、プラスチック部門や産業資材部門の製品に関するお問い合わせも増え、アキレス製品全般への相談窓口として、対応範囲が拡大しています。

また、お客様相談室全体の電話対応スキル向上のため、毎年100社以上の調査を行っている専門会社に委託して、「電話対応品質調査」を実施しました。調査会社は、電話によるお客様とお客様相談室の部員との実際のやりとりを、客観的に評価します。評価は、担当者ごとに5つのカテゴリー(計20項目)について5段階で行われ、総合力の平均も算出されました。

結果、お客様相談室全体としての総合力は61.3%となり、業界基準の60%(Cランク)を上回りました。3年前の調査結果57.9%と比較してもレベルアップができていました。

ただし、部署全体としての改善すべき点や、各担当者の課題も明確となりましたので、日々の電話対応業務の中で各々が改善点を意識しながら、さらなる対応品質の向上に取り組んでいます。

#### ●電話対応品質調査の結果



### 大学生への啓発活動

当社は、消費者課題に取り組んでいるACAP\*に所属しています。この活動を通じて、大東文化大学と目白大学の2校で、「企業におけるお客様相談室の役割」や「SDGs」などをテーマとして、講

演を行いました。間もなく社会人になる大学生に向けて、企業人の立場から、また、一消費者の立場から、持続可能な消費活動のあり方と必要性などをお話ししました。

※ACAP：消費者関連専門家会議  
(約600社が参加)。  
<https://www.acap.or.jp/>

大東文化大学での講演  
(東京都板橋区)



### お客様とのコミュニケーション強化

お客様との距離を近くし、接点を増やすための取り組みも進めています。

特にシューズのお問い合わせに備え、「シューフィッター」(足と靴の専門資格)の取得を進め、2020年3月末時点では、お客様相談室の従業員4人全員が「シューフィッター」となりました。その知識を活用しながら、単なるクレームやお問い合わせへの対応だけでなく、お客様からの靴に関連するさまざまなお悩みなどへの相談にもあたっています。シューフィッターとしての対応は、他社との大きな差別化にもつながっています。

そして、以前から実施している「足育(そくいく)相談室」の活動も、さらに活発化させています。当社本社ショールームに来社いただいて「足型測定とカウンセリング」を行うサービスと、小中学校などに出向いての足と靴に関する「出前講座」も、引き続き好評をいただいています。また、最近では、歩くことと健康とのつながりがさらに重要視されていることもあり、シニア世代向けの出前講座のリクエストも増えてきています。

2019年度は「出前講座」を63件実施し、聴講者数は3,652人でした。2014年度のスタート時からの累計では、実施件数が230件、聴講者数は12,266人となっています。

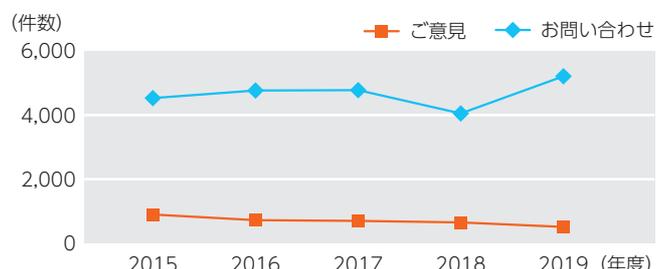


東京都小金井市立南中学校  
足と靴に関する出前講座



愛知県名古屋港区ボランティア連  
絡協議会  
シニア向け講座(聴覚障がいのある  
方も参加されたため、手話通訳士と  
共に講演)

#### ●お客様相談室に寄せられるお問い合わせとご意見の件数推移



## 株主様と共に

### 基本的な考え方

当社は、企業価値の向上に努め、存在意義を示し、株主・投資家の皆様のご期待に応える会社を目指しています。株主・投資家の皆様に対しては、法令を遵守した方法で、タイムリーに、公正で正確な情報を分かりやすく開示することに努めています。そして、情報開示を含むIR活動を通して、株主・投資家の皆様との対話を行っています。

### 報告書・中間報告書

当社ではホームページでの情報開示と併せて、事業概要を分かりやすくとりまとめた報告書を株主の皆様へ半年ごとに年2回お送りしています。報告書では、アキレスの代表取締役社長からの事業環境および業績概要の説明に加え、連結財務諸表、各事業の業績・新商品情報、ならびにアキレスグループのトピックスなどをご案内しています。

また当社では、毎年6月に定時株主総会を開催し、株主の皆様と直接対話を行っています。株主総会終了後には、新商品・新技術をご紹介します、株主の皆様から直接ご意見をうかがう機会を設けています。



株主の皆様への報告書

### 株主総会議決権行使比率の向上に向けて

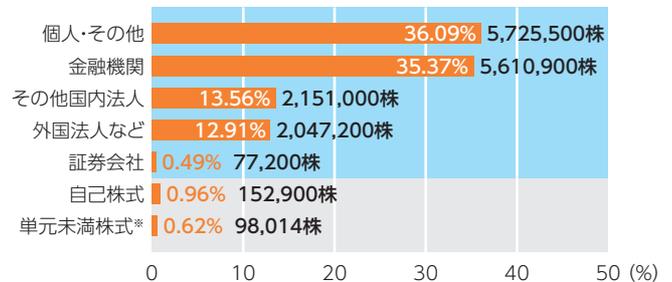
当社は、2019年6月開催の株主総会より、従前の方法に加え、インターネットによる議決権行使が行えるようにしました。

### 株式の状況

#### ●株式の総数など ※2020年3月31日現在

発行可能株式総数	70,000,000株
発行済み株式の総数	15,862,714株
株主数	11,933人

#### ●株式分布状況 ※2020年3月31日現在



※単元未満株式とは、1単元(株式数100株)未満の株式であり、上記単元未満株式には、自己株式80株が含まれています。

## お取引先様と共に

### 基本的な考え方

アキレスグループは「企業行動憲章」に従い、法令遵守はもとより倫理的な行動に努め、公正かつ自由な取引を通じてお取引

先様と長期的な信頼関係を構築し、相互協力により共存共栄の関係を図っております。また、「アキレス調達基本方針」を定め、環境に配慮した持続可能な調達と法令遵守ならびに人権尊重などへの取り組みをサプライチェーン全体に広めています。

### アキレス調達基本方針

#### 基本方針

1. 公正・透明な取引
2. 企業倫理および関連法令の遵守
3. 環境への配慮、保安防災への取り組み
4. 人権尊重、児童労働・強制労働の禁止、労働・安全衛生の配慮
5. 製品・サービスの安全性・品質の確保
6. 個人情報・製品情報を含む情報セキュリティの維持・推進
7. お取引先様との共存共栄
8. お取引先様の知的財産・資産等の適正管理
9. 紛争鉱物\*問題への対応

#### お取引先様の選定方針

1. 経営状態が健全であること。
2. 安定供給力と生産変動への柔軟な対応力があること。
3. 左記基本方針を含め社会的要請に配慮する取り組みを行っていること。
4. 価格・品質・納期・技術力・サービスのレベルが適正であること。

※その採掘や取引が武装集団の資金源となり紛争を助長、あるいは人権侵害、労働問題などに密接に関連している鉱物。2010年7月に米国で成立した「金融規制改革法」において、コンゴ民主共和国および隣国において産出される鉱物のうち、タンタル、錳、金、タングステン、そのほか国務省が判断する鉱物が紛争鉱物とされました。また米国上場企業に対し、紛争鉱物を使用する場合は米国証券取引委員会(SEC)に報告することが義務付けられました。

### CSR調達の取り組み

当社では、サプライチェーン全体のCSR活動の実効性が、さ

らに向上することを目指しています。年に1回、「CSR調達アンケート」を主要取引先様に実施し、調達基本方針の遵守のチェックを行っています。

アンケートからは、お取引先様のコンプライアンス経営ならびにCSR活動への取り組みの拡充がうかがえました。引き続き啓蒙活動を通じて、サプライチェーン全体の品質向上に努めます。

(アキレス調達アンケートの質問構成)

- ✓ 人権と労務に関して
- ✓ 従業員の安全衛生に関して
- ✓ 環境保全対応に関して
- ✓ 公正取引や倫理的行動に関して
- ✓ 製品の安全性・品質に関して
- ✓ 情報セキュリティに関して
- ✓ 社会貢献に関して
- ✓ グリーン調達に関して



CSR調達アンケート

## 調達業務関係者の教育訓練

公正な取引慣行の醸成を目的として、調達業務者と管理職(計229人)を対象に、下請法に関する研修を行いました。また、購買部においては、下請法への理解度を確認するテストを実施し、平均点が基準を上回っていることを確認しました。

## 従業員と共に

### 基本的な考え方

アキレスグループは、従業員を重要なステークホルダーと位置づけています。「企業行動憲章」で「従業員の能力を高め、多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現し、安全と健康に配慮した働きやすい職場環境を整備します」と定め、その実践として必要な制度や活動内容を決定し推進しています。その根幹にある考え方は、従業員との「共存共栄」です。

### 人権尊重・公平

アキレスグループは、法のもとでの雇用関係を遵守し、違法労働や児童労働、性的差別、人種差別、宗教的差別などの人権侵害を行いません。また、これらの行為に加担しません。「アキレス行動指針」において、人権尊重を含む倫理的行動および遵法をグループの全従業員が誓約しています。

アキレスグループでは、全ての従業員に対し公平・均等に機会を与えるように努めています。パワーハラスメント・セクシャルハラスメントを禁止し、社内外に通報窓口を設けています。

### 雇用の状況

アキレスグループでは、安定した雇用の維持と雇用機会の拡大を図るため、計画的な雇用に努め、均等な雇用機会を提供しています。

#### ●従業員数(連結) ※2020年3月31日現在

男性	1,352人	女性	323人	合計	1,675人
----	--------	----	------	----	--------

#### ●従業員基本データ(単体) ※2020年3月31日現在

平均年齢	男性 40.2歳	女性 42.6歳	全体 40.6歳
勤続年数	男性 18.3年	女性 21.1年	全体 18.8年
平均年収	約572万円		

#### ●人材(単体) ※2020年3月31日現在

役員(執行役員を含む)	男性 24人	女性 1人	合計 25人
部長職	男性 43人	女性 0人	合計 43人
課長職	男性 201人	女性 7人	合計 208人

#### ●定年退職者再雇用制度(単体) ※2020年3月31日現在

2019年度制度利用者	146人
-------------	------

#### ●中途採用者比率(単体) ※2020年3月31日現在

2019年度中途採用者比率	9.3%
---------------	------

### 個人情報保護

アキレスグループでは、個人情報管理規定を設け、そのうち「従業員の個人情報管理」に関する部分を独立した条文として、従業員の個人情報を保護・管理しています。また「従業員の個人情報」については、社内システム上で複数階層のセキュリティを設定し、アクセス可能な人員を限定しています。

### 福利厚生

当社では、各地の事業場所在地において、独身寮、社宅などの施設および、社員持株制度などによる社員生活安定の支援を行っています。また少子高齢化社会における仕事と家庭の両立支援策として、育児・介護休業制度などを設けています。



独身寮/東京本社(2019年度に外壁改修工事を実施)

#### ●育児休業制度(単体)

2019年度制度利用者	男性 0人	女性 9人	合計 9人
-------------	-------	-------	-------

●介護休業制度(単体)

2019年度制度利用者	0人
-------------	----

●年間平均総実労働時間(単体)

2019年度実績	1,955.1時間
----------	-----------

●平均有給休暇取得日数(単体)

2019年度実績	10.1日(54.6%)
----------	--------------

## 労働組合

### 労使関係

当社には、アキレス労働組合とアキレス本社労働組合の2つの労組があります。共に労使の相互信頼をベースに、会社方針に則り会社発展に貢献することで、従業員の生活維持・向上につなげていくとの基本方針のもと、充実した労使のコミュニケーションを図り、労使協調した取り組みを進めています。

アキレス労働組合には、製造部門で働く従業員(役員、管理職を除く)866人\*が加入しています。また、アキレス本社労働組合には、営業部門で働く従業員(役員、管理職を除く)237人\*が加入しています。

※2020年7月1日時点の加入員数

### 労働組合との協議状況

当社では、年2回の給与および賞与の協議と関連し、年3回の運営協議会(5月、9月、11月)を定期的に開催しているほか、人事諸制度の変更や福利厚生に関する内容など労働条件に関する変更や新設などは、労使で協議し、合意の上で実施しています。

また、安全衛生、環境、資格制度、再雇用など、労使双方による委員会で検討し、公平かつ適正な運用を図っています。

### 【主な労使協議】

運営協議会(年3回)／本部労使協議(原則月1回とし、都度実施)／支部労使協議(原則月1回とし、都度実施)／支部協議(都度実施)

### 労使共催行事

当社では、健康増進・コミュニケーション向上などを目的とした労使共催の行事により、労使間の交流を図っています。新入社員を迎えるソフトボール大会・ボウリング大会は定例行事となり、所属部署の枠を超えて従業員同士の親睦を深めるコミュニケーションの場となっています。



新入社員歓迎ボウリング大会  
(東京本社)



新入社員歓迎ソフトボール大会  
(足利地区)



プロ野球観戦  
(足利地区)



大阪城ウォークラリー  
(滋賀地区)



赤い羽根共同募金活動  
(足利地区)



ハツラツプラン55オセセミナー  
(足利地区)

## 健康経営

アキレスグループでは、健康経営に取り組んでいます。企業の社会的責任として、従業員の健康衛生管理はもちろんのこと、各自が生活習慣上の問題に気付き改め、健康な長寿を目指すよう、セミナーなどを通じて啓蒙しています。



健康セミナーの風景(東京本社)



2019年度東京都スポーツ推進企業\*1に認定



スポーツエールカンパニー\*2に認定(スポーツ庁)

※1 東京都では2015年度から、従業員のスポーツ活動の促進に向けて優れた取り組みやスポーツ分野における支援を実施している企業等を、「東京都スポーツ推進企業」として認定しています。

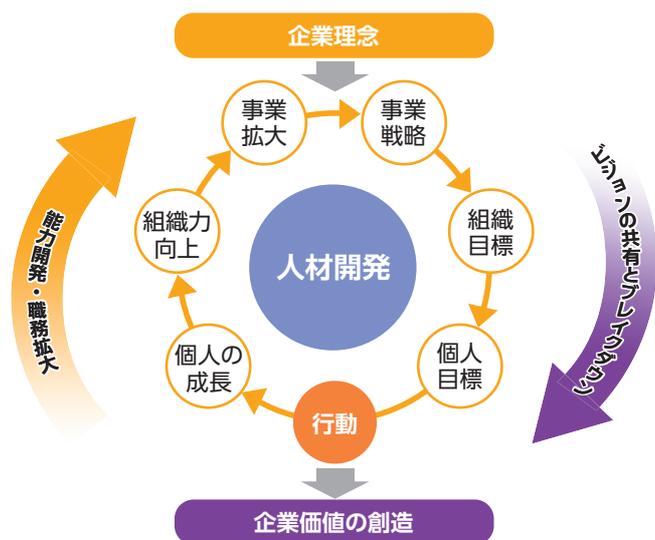
※2 スポーツ庁は、従業員の健康増進のためにスポーツの実施に向けた積極的な取り組みを行っている企業を「スポーツエールカンパニー」として認定しています。

## 人材開発

変化の激しい社会環境の中で生き残っていくためには、社員一人ひとりの人間力の向上を図り、企業価値を次々と創造し続ける集団になることが必要です。そのために、当社では人材開発を積極的に推進しています。「人」という経営資源のパフォーマンスを向上させるとともに、一人ひとりの成果を組織成果に結び付けることで組織全体を活性化し、社員がその能力を存分に発揮しながら生き生きと働ける環境を創り出しています。アキレスグループは、社員一人ひとりの人間力の育成とそれを生かせる組織づくりに取り組んでいます。

## 人材開発基本方針

1. 明確なビジョンを描き、その達成のために適切なリーダーシップを発揮できる人材を育成する。
2. リーダーの描くビジョンを実現するため自ら問題を発掘してその解決を図り、仕事の付加価値を高めることのできる人材を育成する。



## 人材開発体系

当社の人材開発は「人材開発基本方針」のもと、社会に必要なとされる企業であり続けるために、企業価値の持続的向上に資する幅広い知識・経験と複数の専門性を兼ね備えたリーダーの育成を目指しています。

### OJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング=業務内指導)

当社の人材開発の基本はOJTです。上司と連携して業務目標を決め、課題達成にチャレンジし、適時にレビューを行います。コミュニケーションを通して気付きを促し視座を高めていきます。

### Off-JT(オフ・ザ・ジョブ・トレーニング=集合研修)

当社では、各自の役割に応じて求められるスキルや専門知識の習得は、集合研修で支援しています。特に、グローバル化への対応は急務であり、語学力に加え、異文化への理解を深める機会を研修を通じて提供することで、実践力を高める育成に努

めています。また、異業種交流を積極的に行い、イノベーションを育む風土の醸成に努めています。



グローバル研修風景(東京本社)



異業種交流研修風景(東京本社)

### SD(セルフディベロップメント=自己啓発)

当社では、社員の能力向上意欲に敬意を表し、補助金支給制度を設けて通信研修を奨励しています。これにより一人ひとりが必要と考える科目を選択し、自分の能力向上につなげています。

### ●教育研修体系(単体)

	役員	事業部長	部長	課長	各階層	新人
幹部育成						
グローバル						
管理職						
階層別						
コンプライアンス						
専門性						
OJT支援						
自己啓発						

### ●2019年度の主な集合研修

研修区分	研修テーマ数	参加者数
幹部育成研修	5	100人
グローバル研修	1	19人
管理職研修	5	301人
一般職研修(うち、新人研修)	13 (2)	306人 (72人)
コンプライアンス研修*	6	1,458人
専門性向上研修	7	174人
通信教育	4	256人
安全衛生研修	8	527人
災害対応研修	1	64人
異業種交流研修	1	15人

※コンプライアンス研修はアキレス国内グループ全従業員の実績です。ほかの研修はアキレス株式会社の従業員の実績です。なお、参加者数は、研修区分内の各研修テーマに参加した従業員数の合計です。

## 地域社会と共に

### 地域社会の一員としての取り組み

アキレスグループは、CSR重要テーマの一つとして、地域社会とのコミュニケーションや社会貢献活動を重んじ、地域の発展に貢献することに取り組んでいます。当社では、拠点を置く

地域において、教育機関の見学・研修の受け入れや防災訓練への参加、各種イベントへの協賛など、地域団体と共同で地域活性化に協力しています。

### やまがた太陽と森林(もり)の会クレジット【山形県】

当社では、山形アキレスエアロン(株)の拠点がある山形県のJ-クレジットを、2017年度から毎年購入しています。2019年度は、335t-CO<sub>2</sub>分を購入し、当社グループの事業活動によるCO<sub>2</sub>総排出量から差し引くことで、CO<sub>2</sub>総排出量の削減を図りました。

2019年度は、この取り組みが評価され、J-クレジット東北地域推進協議会主催による「東北地域カーボン・オフセットグランプリ」において、「東北地域カーボン・オフセットグランプリ東北支援賞」をいただくことができました。

※J-クレジット制度：再エネ機器の導入などによるCO<sub>2</sub>の削減量などを政府が認証する制度。認証を経ることにより市場での取引が可能となります。単位：t-CO<sub>2</sub>



山形県庁での契約締結式(山形県山形市)。吉村 美栄子山形県知事(右)と当社代表取締役社長 伊藤 守(左)



東北地域カーボン・オフセットグランプリ表彰式(宮城県仙台市)



### G20大阪サミット警備で当社製ゴムボートが活躍【大阪府】

2019年6月に開催されたG20大阪サミットでは水上警備も強化されました。機動力の高い当社製ゴムボート「HB-385」が17艇導入され、各国の要人警護の一翼を担いました。



G20大阪サミット河川警備の様子(大阪府大阪市)

### Achilles Lifestyle Store (アキレス ライフスタイルストア) がオープン【東京都】

「より多くの人に、快適な暮らしに役立つ当社製品を知ってもらいたい」という思いで、2019年12月「渋谷フクラス」にショップをオープンしました。シューズ製品、マットレス製品、室内用壁紙製品など、当社独自の技術を生かした製品を販売しています。お客様から直接頂戴する貴重なご意見などを、サービス向上につなげていきます。



Achilles Lifestyle Store(東京都渋谷区「渋谷フクラス」4階)

### 足利花火大会【栃木県】

2019年8月3日に足利商工会議所主催による「第105回足利花火大会」が開催され、アキレスグループも地元企業として協賛しました。同花火大会は1903年に始まった歴史ある大会で、毎年約50万人の観客が訪れます。2万5,000発もの花火が打ち上げられ、フィナーレとなる花火は正に圧巻で、観客から大きな歓声が上がっていました。



第105回足利花火大会(画像提供：足利商工会議所)

### 足育(そくいく)活動【東京都】

当社東京本社ショールームでは、毎週火～金曜日の13:00～17:00に「足型測定とカウンセリング」を実施しています(完全予約制)。また、全国各地の大型ショッピングセンター特設会場でも足育(そくいく)活動を実施するほか、ホームページの受付窓口などからの申し込みに応じて小中学校などで出前講座を開き、足に合った靴の選び方、正しい靴の履き方などの情報を提供しています。東京本社ショールームでは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、フェースシールドの着用やアルコール消毒などの感染予防を行った上で、足型測定とカウンセリングを行っています。



当社東京本社ショールームでの足型測定とカウンセリングの風景(東京都新宿区)

### 第68回利根川水系連合・総合水防演習【栃木県】

2019年5月18日、「第68回利根川水系連合・総合水防演習」が足利市渡良瀬川左岸で開催されました。同演習は1947年のカスリーン台風による未曾有の被害を教訓として1952年から始まり、国土交通省および関東1都6県(栃木県・群馬県・茨城県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県)ならびに開催市町村が主催し、毎年利根川水系の河川で開催されています。

足利では40年ぶりの開催となり、当社からも演習への参加とテントなどの防災用品の展示を行いました。



建物への浸水を防ぐ土嚢積演習(栃木県足利市)



# マネジメントについて

当社の経営の基本方針は、「『顧客起点』のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する」という企業理念を実践し、持続的に企業価値を高めていくことにあり、株主の皆様をはじめとする全てのステークホルダーに存在意義を示し、ご期待にお応えしていく会社になることを目指しています。この経営方針を実現するために、「経営の効率化」「経営の意思決定の迅速化」および「経営の公正性・透明性の確保」と併せて「経営のチェック機能の充実」を重要課題としています。また、経営の公正性と透明性を高めるために、積極的かつ迅速な情報開示に努めるとともに、インターネットを通じて財務情報の提供を行うなど幅広い情報開示にも努めています。

## コーポレートガバナンス

### コーポレートガバナンス体制

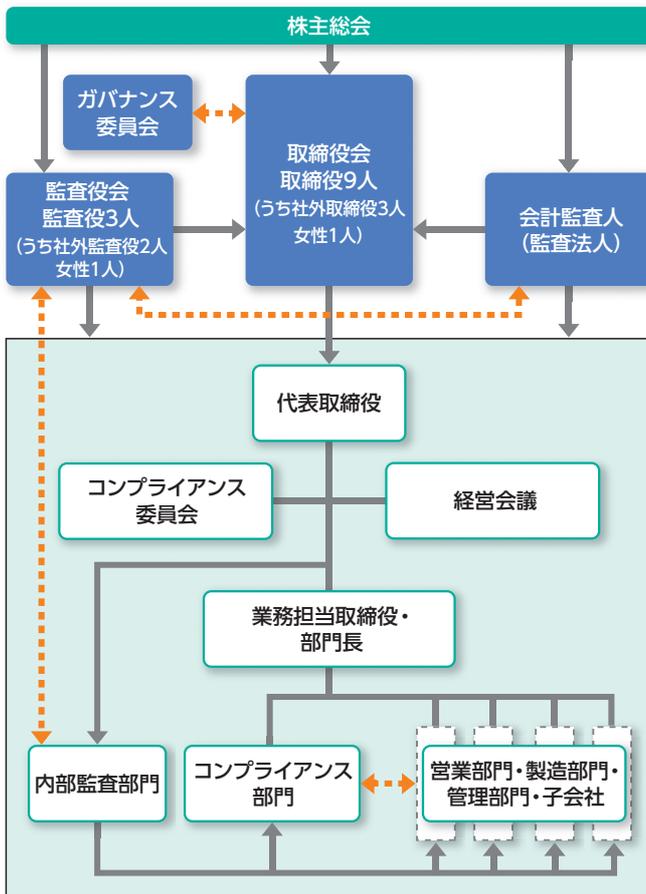
当社においては、取締役会が業務執行状況を監督し、業務執行については、各部門を担当する取締役もしくは部門長に責任と権限を与え、経営の効率的な運用を図っています。

また、3人の社外取締役(うち1人は女性)が客観的・中立的観点から取締役会を通じて経営の監督機能を発揮するとともに、2人の社外監査役(うち1人は女性)が取締役会に出席し、取締役会の意思決定の妥当性・適法性を社外の視点でチェックしており、十分に経営の監視機能を発揮しています。

さらに、指名・報酬などに係わる取締役会の機能の独立性・客観性を高めるため、ガバナンス委員会(社内取締役2人、社外取締役3人の社外役員を過半数として構成)を開催し、取締役会に助言することとしています。

※2020年6月26日より上記体制としています。

#### ●コーポレートガバナンス体制図



#### 取締役会

経営の基本方針、法令で定められた事項、そのほか経営に関する重要事項の審議・決定を行うとともに、取締役の業務執行状況の監督を行っています。

#### 経営会議

意思決定の迅速化と業務運営の効率化を図るために、取締役会に付議すべき事項の審議を行うほか、取締役会の決定方針に基づく具体的な執行方針やそのほか経営に関する重要な業務執行についての審議・決定を行っています。

#### 監査役会・内部監査・会計監査

監査役会は2人の社外監査役を含む3人の監査役で構成されており、各監査役は監査役会が定めた監査の方針・業務分担に従い、取締役会などへの出席、稟議書などの重要な資料の閲覧、子会社を含む事業所に赴くことなどにより、取締役の職務執行について監査しています。

内部監査部門は、法令遵守状況を定期的および必要に応じ確認しています。また、監査役との連携を図り、監査役の効果的な監査業務の遂行に協力しています。

会計監査は、有限責任監査法人トーマツを監査人に選任し、監査を受けています。また、監査報告会を開催し、監査役会は会計監査人から監査実施状況、監査実施結果などの説明を受けるとともに、会計上と内部統制上の諸問題について助言を得ています。

#### 内部統制システム

当社では、取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制、そのほか株式会社の業務ならびに当該株式会社および子会社からなる企業集団の業務の適正を確保するための体制について、「内部統制の基本方針」を定めています。この方針に基づき金融商品取引法に定める財務報告に係る内部統制について、当社および連結子会社における整備・運用の評価を行い、その結果を内部統制報告書として公表しています。

## 取締役会全体の実効性に関する分析・評価

当社は、年1回、取締役会の実効性に関する匿名式のアンケートを各取締役に実施しています。アンケート結果と各監査役からの意見を社外取締役が確認し、取締役会の実効性について意見表明を行います。最終、取締役会にて実効性を審議し、評価しています。2019年度のアンケート結果は右表の通りでした。総合評価でも基準値「3」を超えており、実効性ありと判断しています。

## ●取締役会の実効性に関するアンケート

質問項目	2018年度	2019年度
取締役会の構成について	3.7	3.8
取締役会の運営について	3.8	4.0
社外役員に対する情報提供について	4.0	4.5
取締役会における審議の充実について	3.5	3.7
前年度からの改善状況について	3.7	3.6
総合評価	3.9	4.1

※5段階評価(5:よくできている、3:普通、1:できていない)

# コンプライアンス

## 基本的な考え方

アキレスグループでは、コンプライアンスを遵守し企業倫理を尊重する企業活動を基本原則として「企業行動憲章」を制定し、さらに具体的な基準として「行動規範」を定めています。役員および嘱

託・パートタイマーなどの臨時従業員を含む全ての従業員に対して、「企業行動憲章」を理解し「行動規範」を守ることを求めています。SDGsをはじめ社会的要請の変化に応じて、2019年4月に「企業行動憲章」ならびに「行動規範」を改定しました。

## 企業行動憲章

アキレスグループは、社会に有益な付加価値を創出し、自律的で責任ある行動を通じて、持続可能な社会の実現を目指します。そのためアキレスグループは、国の内外において次の原則に基づき、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていきます。

### (持続可能な経済成長と社会的課題の解決)

1. イノベーションを通じて社会に有益で安全な製品・サービスを開発、提供し、持続可能な経済成長と社会的課題の解決に努め、お客様の真の満足と信頼を獲得します。

### (公正な事業慣行)

2. 公正かつ自由な競争ならびに適正な取引、責任ある調達を行います。また、政治、行政との健全な関係を保ちます。

### (公正な情報開示、ステークホルダーとの建設的対話)

3. 企業情報を積極的、効果的かつ公正に開示し、幅広いステークホルダーと建設的な対話を行い、企業価値の向上に努めます。

### (人権の尊重)

4. すべての人々の人権を尊重する経営に努めます。

### (消費者・顧客との信頼関係)

5. 消費者・顧客に対して、製品・サービスに関する適切な情報提供、誠実なコミュニケーションを行い、真の満足と信頼を獲得します。

### (働き方の改革、職場環境の充実)

6. 従業員の能力を高め、多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現し、安全と健康に配慮した働きやすい職場環境を整備します。

### (環境問題への取り組み)

7. 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動の必須の要件として、環境負荷の低減に主体的に活動します。

### (社会参画と発展への貢献)

8. 「良き企業市民」として、積極的に社会に参画し、その発展に貢献します。

### (危機管理の徹底)

9. 市民生活や企業活動に脅威を与える反社会的勢力の行動やテロ、サイバー攻撃、自然災害等に備え、組織的な体制のもと、危機管理を徹底します。

### (経営トップの役割と本憲章の徹底)

10. アキレスグループの役員は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識して経営にあたり、実効あるガバナンスを構築して社内、グループ企業に周知徹底を図ると共に、サプライチェーンにも本憲章の精神に基づく行動を促します。また、本憲章の精神に反し社会からの信頼を失うような事態が発生した時には、アキレスグループの役員が率先して問題解決、原因究明、再発防止等に努め、その責任を果たします。

## コンプライアンス推進活動

2019年度の主な取り組みは以下の通りです。

### ①コンプライアンス研修の実施

- ・テーマ「下請法」
- ・テーマ「パワーハラスメント防止(改正法対応)」
- ・テーマ「印紙税法」

・テーマ「反社会的勢力排除」

- ②役職員のコンプライアンス意識調査の実施
- ③その他法令などの改正に伴う規定の適宜見直しと従業員への周知



東京本社でのコンプライアンス研修

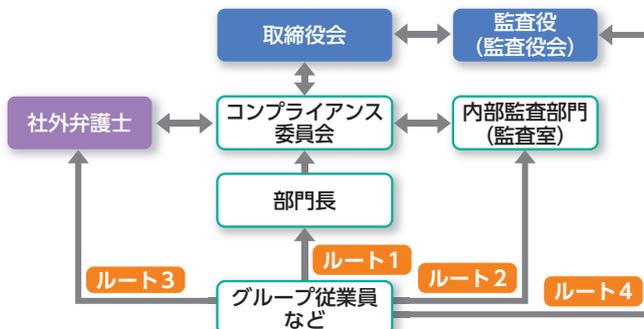
## 通報・相談制度

アキレスグループは、組織または個人による不正・違法・反倫理行為や「アキレス行動指針」に反する行為の発生、またはその恐れがあると判断したときに相談、あるいは通報することができる仕組みとしてホットライン（内部通報制度）を整備・運用しています。当社グループの取締役など経営層に関する事項を対象とした監査役直通の窓口を設けるなど通報窓口を複数設置することにより、違法行為などの早期発見と是正を図り、会社のリスクを最小限に抑えるよう努めています。また、通報者が不利益な扱いを受けないことを社内規定で担保しています。

ハラスメントに関する相談や通報も、ホットラインで受け付けています。相談・通報者が不利益な扱いを受けないよう、配慮を徹底しています。

ホットラインや不定期アンケートにより確認された人権侵害については、定期的に開催しているコンプライアンス委員会にて協議の上、適切な対策を実施しています。

### ●ホットラインの仕組み



## CSRマネジメント

### CSRの基本方針

アキレスグループは、社会の一員としてステークホルダーとの対話を通じて、社会的課題の解決に役立つ活動の拡大に努め、社会の持続的発展に貢献します。

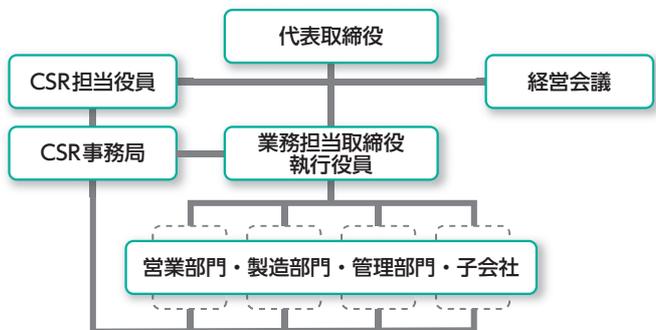
この方針のもと、7つの課題を「アキレスのCSR重要テーマ」と位置づけ事業活動を推進します。

### CSR推進体制

当社は企業理念である「社会との共生」=「顧客起点」の実践こそが、当社のCSR戦略と位置づけ、業務担当取締役および執行役員が率先して企業理念に資する活動を推進できるよう、CSR担当役員がサポートしています。

また、CSR事務局は、コンプライアンス推進室と安全環境推進部が担い、CSR活動の支援および報告書の制作を行っています。

#### ●CSR推進体制の仕組み



### アキレスのステークホルダー

主なステークホルダー	アキレスグループの主な責任と課題	主な対話および情報開示の機会
お客様	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お客様満足度の向上</li> <li>●安心・安全な製品・サービスの提供</li> <li>●製品の取扱方法などに関する適切な情報提供</li> <li>●お客様への迅速かつ適切な対応</li> <li>●お客様(個人)情報の適切な管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日常の営業活動(常時)</li> <li>●お客様相談室(お電話・メール受付)の設置(営業時間内常時)</li> <li>●ホームページ(常時)</li> <li>●イベント(展示会など)の開催(随時)</li> <li>●「足育(そくいく)」相談会</li> <li>●「足育(そくいく)」相談室(足型測定と出前講座)</li> </ul>
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> <li>●適時・適切な情報開示</li> <li>●企業価値向上</li> <li>●議決権行使の尊重(株主総会)</li> <li>●IR活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ホームページ(常時)</li> <li>●決算短信の発行(年4回)</li> <li>●四半期報告書と有価証券報告書の発行(年4回)</li> <li>●株主様への報告書の発行(年2回)</li> <li>●定時株主総会の開催(年1回)</li> <li>●「アキレスのCSR」(CSR報告書)の発行(年1回)</li> </ul>
お取引先様	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公正・公平な取引</li> <li>●オープンな取引機会</li> <li>●CSR推進への協力要請・支援</li> <li>●適切な情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日常の調達活動(常時)</li> <li>●イベント(展示会など)の開催(随時)</li> <li>●情報交換会(随時)</li> <li>●CSR調達アンケート</li> </ul>
従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人権の尊重</li> <li>●労働安全衛生への配慮</li> <li>●ワークライフバランスの促進</li> <li>●労使の相互信頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●労使協議会(随時)</li> <li>●トップからのダイレクトコミュニケーション(随時)</li> <li>●集合研修(随時)</li> <li>●製造部門安全道場(随時)</li> <li>●講演会の開催(随時)</li> <li>●社内報</li> </ul>
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の文化や慣習の尊重</li> <li>●事業場での事故・災害防止</li> <li>●地域社会への貢献活動</li> <li>●環境負荷低減</li> <li>●法令遵守</li> <li>●納税</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●工場見学の実施(随時)</li> <li>●ボランティア参加を含む社会貢献活動の実施(随時)</li> <li>●地域自治体との交流・意見交換(随時)</li> <li>●地域自治体からのJ-クレジット購入(年1回)</li> <li>●ヒアリング対応・情報提供など(随時)</li> <li>●産学官での協働などを通じた対話・連携・支援(随時)</li> </ul>

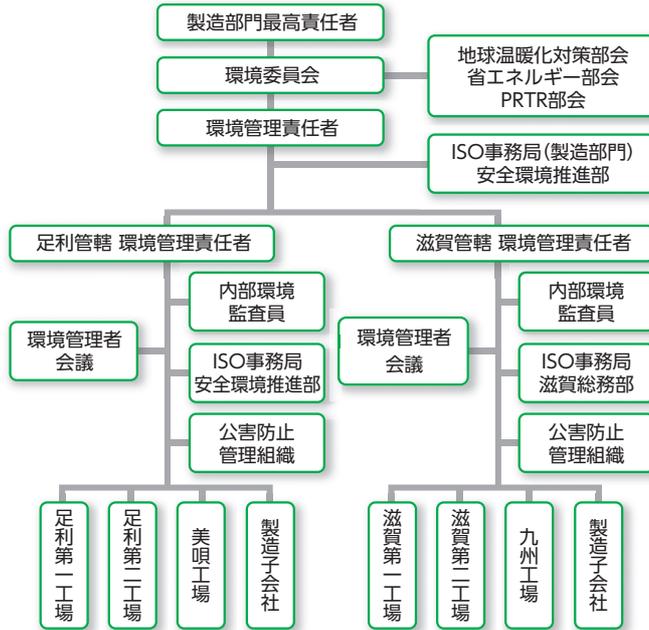
# データ編(環境のために)

## 環境マネジメントシステム

### ●ISO 14001:2015登録事業場 JUSE-EG-661

■アキレス株式会社足利第一工場	2001年9月 拡大取得
■アキレス株式会社足利第二工場	2000年7月 認証取得
■アキレス株式会社滋賀第一工場	2002年9月 拡大取得
■アキレス株式会社滋賀第二工場	2002年9月 拡大取得
■アキレス株式会社美唄工場	2002年9月 拡大取得
■アキレス株式会社九州工場	2002年9月 拡大取得
■アキレスマリン株式会社	2001年9月 拡大取得
■アキレスウエルダー株式会社	2001年9月 拡大取得
■関東アキレスエアロン株式会社	2001年9月 拡大取得
■大阪アキレスエアロン株式会社滋賀営業所	2002年9月 拡大取得

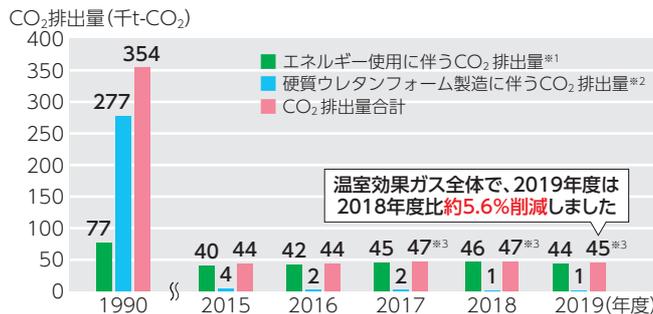
### ●環境管理推進組織



【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

## 地球温暖化対策

### ●温室効果ガス排出量推移



※1 エネルギー使用に伴うCO<sub>2</sub>排出量は、事業活動に関わるエネルギー(燃料、電気など)に伴い発生するCO<sub>2</sub>です。またCO<sub>2</sub>排出量は、地球温暖化対策推進法(改正温対法:2006年4月施行)に基づく算出方法・排出係数一覧から算出したものです。なお東日本大震災以降、原発停止により天然ガス(火力発電)使用が増え、電気事業者の排出係数が大幅に大きくなったことから、2010年度以降は2010年度の排出係数で算出しています。

※2 硬質ウレタンフォーム製造に伴うCO<sub>2</sub>排出量は、原液製造時および発泡時に漏洩するフロン系をCO<sub>2</sub>換算したものです。またフロン系の地球温暖化係数(CO<sub>2</sub>換算係数)は、IPCCの4次レポートから準用し、自主的に算出したものです。

※3 「やまがた太陽と森林(もり)の会クレジット(J-クレジット)」より購入した排出削減量335t-CO<sub>2</sub>は差し引いていません(P.25参照)。

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社/アキレスウエルダー株式会社

### ●輸送に伴う二酸化炭素排出量・モーダルシフト率

項目(単位)	2018年度	2019年度	前年度比
輸送トンキロ*1(千トンキロ)	84,534	77,231	91.4%
発生するCO <sub>2</sub> の排出量(t-CO <sub>2</sub> )*2	10,727	9,786	91.2%
モーダルシフト*3率	18.9%	19.6%	0.7ポイント向上

※1 輸送トンキロ=貨物重量[トン]×輸送距離[キロメートル]

※2 CO<sub>2</sub>の排出量(t-CO<sub>2</sub>)=エネルギー使用量(GJ)×排出係数(経済産業省より)

※3 モーダルシフト:貨物輸送をトラックから鉄道や船に換えることで、一度に大量の貨物を輸送することができ、CO<sub>2</sub>排出量を抑えることができます。

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

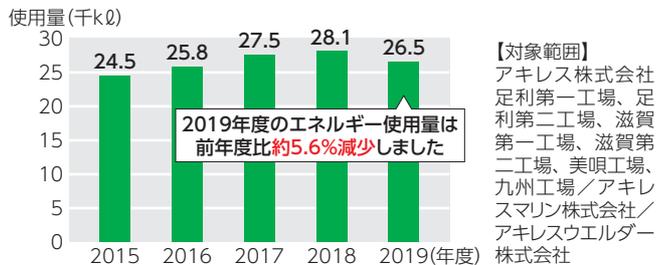
### ●太陽光発電設備

	設備容量(kW)	発電電力量(千kWh/年)	CO <sub>2</sub> 削減量*(t-CO <sub>2</sub> /年)
足利第二工場	529	618	200.4
滋賀第二工場	1,006	1,115	478.2
合計	1,535	1,733	678.6

※足利第二工場は東京電力、滋賀第二工場はエネットの電気事業者排出係数(2010年)を使用

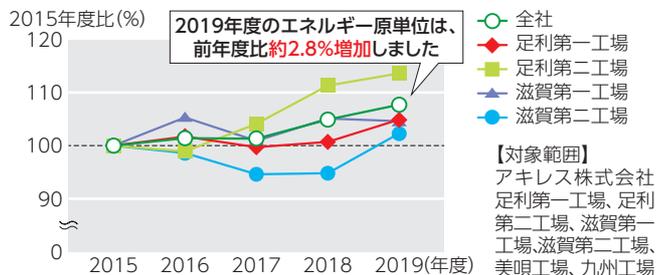
## 省エネルギー

### ●エネルギー使用量(原油換算)の年度別推移



【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社/アキレスウエルダー株式会社

### ●全社および管理指定工場ごとのエネルギー原単位の年度別推移



【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場

### ●設備の改造・導入の主な内容と使用エネルギー削減効果(原油換算値)

内容	削減効果(kℓ)
配管・バルブなどの保温強化、蒸気漏れ防止	100
コンプレッサーの更新、エア漏れ防止	70
新混練機導入による省エネ	60
LED照明・Hf蛍光灯の採用	40
トップランナー空調設備への更新	30
変電所での高効率変圧器への更新	10
その他(ポンプ・モーターのインバータ化など)	20
合計	330

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

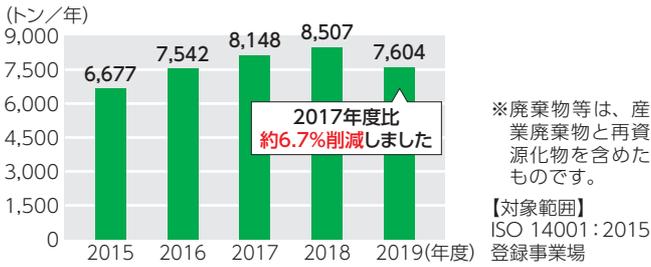
### ●年度別環境関連設備投資費用(過去5年間)



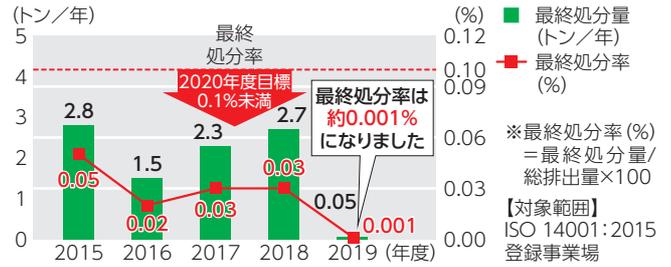
【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

## 3R活動と完全ゼロエミッション

### ●廃棄物等\*総排出量

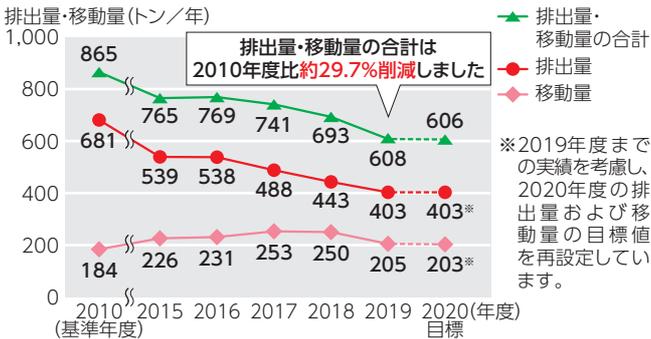


### ●最終処分量および最終処分率\*



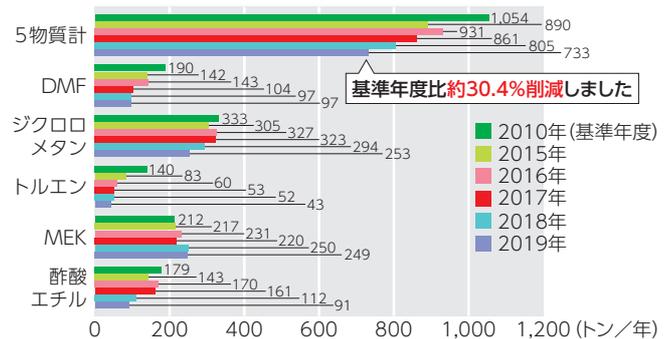
## 大気汚染防止(環境負荷物質)

### ●PRTR法対象化学物質の排出量・移動量



【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社

### ●環境負荷5物質の大気排出量



## 事業場別データ (2019年4月~2020年3月)

### ●PRTRデータ

PRTR法対象 第一種指定化学物質名	足利第一工場			足利第二工場			美唄工場			アキレスマリン株式会社		
	排出量		移動量	排出量		移動量	排出量		移動量	排出量		移動量
	大気	水域		大気	水域		大気	水域		大気	水域	
アンチモン及びその化合物	0.00	0.00	3.40	0.00	0.00	0.05	—	—	—	—	—	
キシレン	0.11	0.00	0.00	2.30	0.00	0.12	—	—	—	—	—	
ジクロロメタン(塩化メチレン)	140.00	0.00	4.20	2.10	0.00	0.13	9.60	0.00	0.58	—	—	
N,N-ジメチルホルムアミド(DMF)	97.00	0.30	1.80	—	—	—	—	—	—	—	—	
m-トリレンジイソシアネート	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	—	—	
トルエン	36.00	0.00	1.90	5.40	0.00	0.28	—	—	—	1.90	0.00	
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.72	0.00	7.80	0.11	0.00	96.00	—	—	—	—	—	
メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	0.00	0.00	1.60	0.00	0.00	0.38	0.00	0.00	0.38	—	—	

PRTR法対象 第一種指定化学物質名	滋賀第一工場			滋賀第二工場			九州工場		
	排出量		移動量	排出量		移動量	排出量		移動量
	大気	水域		大気	水域		大気	水域	
キシレン	0.01	0.00	0.00	—	—	—	—	—	
ジクロロメタン(塩化メチレン)	—	—	—	110.00	0.00	4.90	—	—	
トリレンジイソシアネート	—	—	—	0.08	0.00	0.00	—	—	
トルエン	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	—	—	
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.59	0.00	71.00	—	—	—	—	—	
ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	—	—	—	0.00	0.00	0.04	—	—	
メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	—	—	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
リン酸トリフェニル	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	—	—	

PRTR法該当物質：2019年度の年間取扱量1トン以上の第一種指定化学物質のうち、排出量・移動量が多い上位物質のみ掲載(単位：トン/年)  
横線の物質は報告対象外(取扱量1トン/年未満)

### ●水質

測定項目	単位	基準値	足利第一工場	足利第二工場No.1*	足利第二工場No.2*	基準値	滋賀第一工場No.1*	滋賀第一工場No.2*	基準値	滋賀第二工場
水素イオン濃度(pH)	pH	5.8~8.6	7.1	7.2	7.2	6.0~8.5	7.4	7.7	6.0~8.5	7.8
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/ℓ	25以下	1.5	2.3	1.7	25以下	1.4	2.3	30以下	1.0
浮遊物質(SS)	mg/ℓ	50以下	1.5	9.8	2.0	25以下	3.7	1.2	70以下	1.8
ノルマルヘキサン抽出物質含有量	mg/ℓ	5以下	<0.5	<0.5	<0.5	5以下	<0.5	<0.5	5以下	<0.5
窒素含有量(T-N)	mg/ℓ	120以下	3.2	3.6	3.2	12以下	0.4	0.4	12以下	2.8
リン含有量(T-P)	mg/ℓ	16以下	<0.1	0.1	0.1	1.2以下	<0.05	0.9	1.2以下	<0.1

※水質は、足利第二工場は2カ所、滋賀第一工場は2カ所で測定されたものです ※基準値は各事業場所在地の条例によるものです

### ●大気

測定項目	単位	基準値	足利第一工場	基準値	滋賀第一工場
SOx(ボイラー)	k値規制	7	—	17.5	—
NOx(ボイラー)	ppm	150	28	150	32

都市ガス使用のため、SOxの排出なし

## アキレスのCSR 2020

発行日：2020年9月 発行：アキレス株式会社

### お問い合わせ先

#### 【コンプライアンス推進室】

〒169-8885 東京都新宿区北新宿2-21-1 新宿フロントタワー

TEL：03-5338-8234 FAX：03-5338-8250

#### 【安全環境推進部】

〒326-8511 栃木県足利市借宿町668

TEL：0284-73-9148 FAX：0284-73-9854